



九州・沖縄

2022

教師国内研修

報告書 & ワークショップ集



SDGs 教材づくりのプロセス



JICA九州・JICA沖縄

研修概要	2
参加者一覧と研修の動機	4
研修の軌跡	8
第 1 回・第 2 回	8
フィールドワーク 1 日目	9
フィールドワーク 2 日目	10
フィールドワーク 3 日目	11
第 4 回・第 5 回	12
第 6 回	13
最終報告会	14
研修を振り返っての感想	16
参加を迷っている方へ！	20
講師から一言	24
workshop	25
ワークショップ作成者リスト	26
ワークショップ集	28
授業実践	93
ご協力いただいた皆様スタッフ	104

研修概要

教師国内研修とは

教師国内研修は、講義、ワークショップや、フィールドワークを中心とした研修プログラムです。全7回の研修で得た知識や経験を基にSDGsをテーマとした、開発教育・国際理解教育ワークショップ教材を作成し、教師ご自身の国際理解教育・開発教育の実践に役立てていただくことを目的としています。（「教師海外研修」の代替研修として実施）

研修のゴール

- 研修で得た知識や経験を基に、SDGsをテーマとした参加型学習教材（ワーク ショップ）を作成する
- 地域の特性を活かして、地元企業や自治体等が実施する国際協力や地域づくりについて理解を深める

研究の全日程

	日程	内容	場所
①	6/25（土）	「オリエンテーション・チームビルディング」 ・開発教育とは？	zoom
②	7/2（土）	「SDGs 基礎理解」 ・SDGs 基礎理解講座 ・SDGs ワーク・国際理解教育ワークを体験 （手法：フォトランゲージ） ・フィールドワークに向け、視察の方法を学ぶ	zoom
③	8/8～10 （月～水）	「フィールドワーク at 鹿児島」 1日目：SDGs 視点で地域視察 海上自衛隊科や航空基地資料館 大崎町そおりサイクルセンター・生ごみたい肥化処分場 2日目：街づくりと多文化共生 インドネシア人の肝付町地域おこし協力隊 & 技能実習生について 大崎町 JICA 草の根プロジェクト バリ州現地企業 & JICA インドネシア職員とリモート対談 参加型ワーク体験（手法：ロールプレイ） 3日目：参加型ワーク体験（手法：ランキング） ワークショップ講義 ワークショップづくり・発表	鹿児島県大隅 （宿泊・研修先） 鹿児島県アジア・ 太平洋農村研修 センター

	日程	内容	場所
④	8/20（土）	「ワークショップテーマ決め」 ・昨年度参加教員の実践発表 ・第3回までの学び・手法の確認 ・ワークショップテーマの決定	zoom
⑤	9/10（土）	「参加型ワークづくり（グループワーク）」 ・グループでワークづくりの悩み共有・解決 ・講師よりフィードバック	zoom
⑥	10/1（土）	「参加型ワークづくり（個人ワーク）」 ・個人でワークづくりの仕上げ ・講師よりフィードバック	zoom
⑦	1/21（土）	「報告会」	JICA 九州・沖縄 zoom

参加者一覧と研修参加の動機

九州地域

氏名（ふりがな）	所属	担当教科	写真	本研修参加の動機
一ノ瀬 めぐみ （いちのせ めぐみ）	長崎精道小学校	保健体育 5年		情報化社会が進む昨今、これからの子ども達にとって、世界はより身近な存在になっていくと思います。コロナ禍で海外に行く事が難しい中、国際理解教育の重要性を感じています。様々な企業が、SDGs17に取り組み、地球規模で世界の問題に向き合っています。自分自身も教師という立場で、子ども達にいろいろなことを教えていきたいと思い応募しました。また、学び・作り・すぐ実践できるこのプログラムに魅力を感じたことも動機の一つです。この研修を通して、世界中とのネットワークを作りたいと思います。また、自分自身が世界規模の広い視野を持って生き、それを伝えていきたいと思っています。この研修で、簡単に海外に行けない今だからこそわかる、世界の本当の状況について知ることができると期待しています。
高山 亮 （たかやま りょう）	福岡市立警固中学校	社会科		・国際理解への視点を広げて授業づくりをしていくこと。 ・SDGsについて理解を深めること。 ・地域の特性や強みについて生徒と共に考えること。 ・教科校種県をまたいだ教員間のネットワークを作ること。
南木 清美 （なんもく きよみ）	鹿児島県霧島市立 日当山小学校	英語		昨年度、本校在籍であり現在はガボン共和国で教育支援を行なっておられる教諭との交流授業を行なった。子供たちは、国際連合について学習しており、実際に現地の教育事情を知ることで、子供たちが世界が抱えている課題を自分ごととして捉え、自分には何ができるかを深く考えるきっかけとなるいい学習の場となった。このことから、私自身も世界の現状について視野を広げ、それを子供たちに伝えていくことができるように学びたいと思ったことが、応募の動機である。研修では、SDGsや国際協力について学び、子供たちに授業の中で伝え深く考えさせる経験を提供できるようになりたい。
廣松 大和 （ひろまつ やまと）	学校法人岩田学園 岩田中学校・高等学校	英語 APU 講座		高校大学連携の探究学習科目でSDGsをテーマとした学習を昨年度カリキュラム編成した。一層の知識技能向上によりカリキュラムのブラッシュアップを図りたい。

沖縄地域

氏名（ふりがな）	所 属	担当教科	写 真	本研修参加の動機
村吉 多賀子 （むらよし たかこ）	沖縄県立八重山高等学校	地理歴史		現在、所属校にて年間を通して SDGs を軸にした学習や課題解決型の学習を行なっている。所属校は離島にあり、研修の機会に乏しい。自分自身が今回の研修にて深く学ぶことで生徒の学習を支える一助になりたい。また、県内、県外の先生方や JICA、JOCA スタッフの方々と研修を通じて交流する中で刺激を得、授業改善を行いたい。
桑江 広太 （くわえ こうた）	沖縄県立大平 特別支援学校 小学部	4 年		私が本研修に応募した理由は、大きく二つ あります。一つ目は、SDGs について私自身の理解を深めたいという理由です。SDGs という言葉が当たり前のように普及している昨今、児童に指導する立場である教師は、SDGs の視点や課題解決に向かう姿勢を授業の中で取り扱う必要があると考えています。SDGs について、私自身の理解を深めることで、生活する地域における課題に対して、児童が解決方法について考えたり触れたりできる学習活動の計画や実践をしていきたいと思います。応募理由の二つ目は、SDGs の視点を具体的にどのように授業に取り入れ、国際理解教育を進めていくのか、本研修を通して学んでいきたいという理由です。私は特別支援学校の小学部で勤務しており、指導する子供達は、コミュニケーション面や学習面、身体面などに課題を抱えており、実態は様々です。研修の中では、特別支援学校に通う児童生徒へアプローチしていく視点を持ち、ワークショップや授業案作成の中で、SDGs をテーマとする授業について学びたいです。今後、様々な校種や他県の教員とつながりが持てることにも期待し、本研修に取り組んで参りたいと思います。
安田 浩哉 （やすだ ひろや）	那覇市立石嶺小学校	5 年		本校では校内研究として、地域に根ざした授業を展開しています。その中で私が受け持つ 5 学年では世界規模の課題を SDGs の視点から見つめ、それを地域から考えていくという学習をこれから展開していく予定です。そんな中で、JICA の教師国内研修の募集要項を目にし、教師としての知見を広め、本校独自のオリジナル教材の開発や授業改善に活かしていきたいと思い応募させていただきました。
伊集 環 （いじゅ たまき）	豊見城市立豊見城小学校	3 年		テレビをはじめ、インターネットや書物、あらゆる場面において、SDGs という言葉をよく 耳にするようになりました。しかし、私自身、学校教育の中で、子ども達に SDGs について具体的に何をどのように指導したらいいのかよく分かっていません。本研修を通して、未来を生きる子ども達のために、私自身が SDGs について理解を深めることで、より良い社会を築く知恵や力を育むヒントを得られればと思い、応募しました。
古見 優奈 （ふるみ ゆうな）	伊江村立西小学校	6 年		私が本研修に参加したいと思った動機は、現在勤務している離島の学校の教育活動を通して、多様性や文化の継承、持続可能な社会の担い手を意識して取り組む国際理解教育の重要性を感じたことです。小さな島国である 日本の中のさらに小さな島の沖縄での教育活動は国内はもちろんですが、世界に視野を向けて展開することがこれから生きる子どもたちには必要だと捉えています。子どもたちに教育するためにまずは自分から世界の現状や課題に目を向けていかなければならない。同じような動機を持った先生方と授業作りを行っていきたくと考えています。研修では SDGs とは何か、子どもたちへ分かりやすく伝えるためにはどのような内容の授業をどのように展開していけばよいのかを話し 合いを通して学んでいきたいと思います。
譜久村 太一 （ふくむら たいち）	沖縄県立陽明高等学校	理科（物理）		今年度より総合学科特有の産業社会と人間という科目をもち、総合的な探求の時間を担当しております。その中で本校では SDGs の視点を入れた取り組みを行なっているのですが、さらに深めるためのプログラム作りを目指したいと思い、応募いたしました。

研修の軌跡

第1回：6月25日（土）

○アイスブレイク・チームビルディング

- ・自己紹介
- ・漢字で自分を表現する
数個の与えられた漢字から一つを選び、その漢字を使いながら自己紹介を行う
- ・だいたい半分
参加者の数がだいたい半分になるような質問を考えて投げかける

○SDGsの思いをシェア

- ・自分の関心のあるSDGsの項目とその理由について
参加者と意見交換、参加者同士の目標共有

○グループワーク

- ・ジグソー法について
全員が参加しないと解けないカードゲームを行い、コミュニケーションを図る

○開発教育について

- ・NPO九州丸田局長より、国際協力の経験から開発教育とSDGsに取り組む意義についてご講話



第2回：7月2日（土）

○庄田清人さんによる講話

SDGsの理念「誰一人取り残さない」やSDGsの各項目が連鎖していることを学ぶ

1～6全ての人に焦点をあてた目標、7～11豊かな生活を送るための目標

12～17planet（地球）peace（平和）partnership（連携）

また、SDGsは、現在ではなく未来を起点に考える「backcasting」という考え方であることを教えていただく。

さらに、各学校で取り組まれている事例を紹介してもらう。

小学校ではカードを通してSDGsの内容を知るという流れ、中学校ではアクションカードゲームで社会課題をどう解決していくかを考える内容、高校では地方創生ゲームを活用した取り組みを紹介していただく。

○前原無量さんによる講話

フィールドワーク論では、どのような視点で観察したらよいかや、メモや記録をする際は何を使うとよいかなどを教えていただく。

国際理解教育ワークでは、「違いの違い」というグループワークで、あるテーマを「違っていい」「違ってはならない」の二つに分かれ、グループの仲間と楽しみながら話し合い、世の中には色々な違いがあることを認めることが大切であることを学ぶ。

また、「フォトランゲージ」という手法を教えてくださいました。フォトランゲージとは、写真から読み取れることを想像しながらグループで話し合うという内容。研修ではバナナの写真を使用し、日本に輸入されているバナナが、生産されている国で抱えている問題について考えた。



第3回：8月8日（月）～10日（水）

フィールドワーク at 鹿児島

日程	8月8日（月）～10日（水） 2泊3日
場所	鹿児島県 大隅
目的	街の中のSDGsを知る 世界の現状を知り、国際理解を深める ワークショップづくりの基礎を学ぶ

フィールドワーク1日目 8月8日（月）

○施設見学

「鹿屋航空基地史料館」

真珠湾攻撃への作戦が話し合われた「鹿屋会談」が行われた場所。戦前の海軍鹿屋航空隊から戦後の海上自衛隊基地までの豊富な資料が展示されており、特別攻撃隊（特攻隊）の遺品などが数多くあった。沖縄戦の際に大田中将が沖縄県民の奮闘ぶりを海軍次官に宛てて送った電報の受信文などもあり、沖縄における平和教育との関連性をその後のふりかえりで話し合うこともでき、SDGs16「平和と公正をすべての人に」を考える機会となった。



「そおりサイクルセンター」

ここは大崎町や志布志町の委託を受けてゴミのリサイクルを請け負っている施設で、私たちはリサイクルセンターの方や大崎町の松元課長から説明を伺い、ゴミが細かく分別されている様子や具体的にゴミがどのようにリサイクルされているのかを見て学んだ。ゴミ袋に氏名を書いているところから、住民が自分の出したゴミに責任を持っているのだと感じた。



「大崎有機たい肥工場」

各家庭から出た生ごみを水色のバケツで回収し、それらを粉碎し草木ごみや乳酸菌（ヨモギを発酵させたもの）と混ぜて有機肥料を作る。どこまでもローコストにこだわり、粉碎する機械も焼酎造りに使われているものを使っているそう。肥料作りは微生物との共同作業ということで、関わる職員を「いきものがかり」とお茶目に称していた松元課長のユーモアが印象的だった。



○振り返り

宿泊施設であるKAPICセンターでは、研修1日目のふりかえりをKJ法で行った。

1日目からかなりハードな日程だったが、学びが多く充実したスタートとなった。

フィールドワーク 2日目 8月9日（火）

○講話、対談

～多文化と地域の関わり～

内之浦銀河アリーナでは、地域おこし協力隊のユディカさんからインドネシアの技能実習生のお話を聞くことができた。インドネシアと日本との違いについての話や、人とのご縁で鹿児島という場所を選んだというお話が印象的だった。

また、内之浦漁協の濱脇さんにも実際に技能実習生との関わりについて聞いた。地域のみなさんによる受け入れやそのための様々な心配りに、内之浦地域が持続可能な社会であることを実感した。

～大崎ごみプロジェクト、インドネシアとのリモート対談～

大崎町の松元さんからは、大崎町の草の根プロジェクトについて熱いお話をいただいた。システムがローコストであり、住民の理解を得るための努力が素晴らしかった。また、それが世界へ広がっていることで、小さな町の大きなプロジェクトになった。

○ワークショップ

ワークショップの「一枚の看板」では、本当の善意とは何かについて考えさせられた。今後のワークショップ作りにつながる大切な一日になった。



フィールドワーク 3日目 8月10日（水）

○ワーク体験

「水から考えるワークショップ」では水運びを体験したことで、途上国の方々の思いを想像することができた。そして、水の大切さを実感した。自分たちが日常生活において、いかに水を無駄にしているのかに気づき、とても心が痛くなった。その実態を知らない・知る機会がなかったことがとても辛かった。子どもたちもこの状況について知らないと思うので、授業を通して、伝えていきたい。また、安全対策もしっかりと考えられているプログラムなので、安心して実践できるものだと感じた。

○ワークショップづくり

今回参加した教員と共同での授業づくりを行い、とても有意義な時間となった。研修での学び(インプット)を授業といった形にアウトプットする作業を通して、理解していることと、あまり理解していないことをお互いに教え合いながら取り組んだ。そして、何より、一人で授業づくりをするのではなく、仲間と一緒に共同での授業づくりだったので、様々な案を出し合うことができた。ほかのグループの授業アイデアもとても面白く、新たな発見が出来る機会となった。



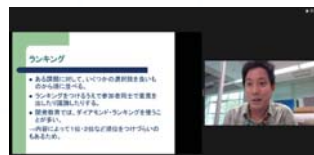
第4回：8月20日（土）

○昨年度、参加者の発表

ねらい：ワークショップ作りの参考にする

①熊本県立八代農業高等学校伊豆味分校 河野遼 氏

鳥獣害対策におけるシカの狩猟を通して、命、人間生活、地域文化の多様性について考える内容であった。シカがかわいそう・農家の残念な気持ちの2つの意見を持つ同士がわかり合えるにはどうしたらよいのかを考える。また、高校生と小学生のzoomを用いた交流での学びなどの取り組みの発表を聞くことができた。



②宮城県立延岡高等学校 濱口弥雲 氏

安芸高田市のサードプレイスの事例を通して、自分の良さをいかした相互扶助の在り方を伝えるという内容であった。多文化共生社会をテーマとし、生徒の実態と地域を結びつける。また、ワークショップ作りを他県の先生とグループで作成に当たったがオンラインの難しさや時間の課題があったという発表を聞くことができた。この2つの発表を基に、現在の研修者である私たちはそれぞれのワークショップ作りの参考とすることができた。

○手法紹介・ワークショップテーマについて

ダイヤモンドランキングの手法を学んだ。優劣付けにくいものもある程度幅を持たせ、合意形成へと導く。ワークショップテーマ選びの話し合いではそれぞれが、どのような視点を持ちたいかを共有した。「話し合いをさせたい」「目からうろこを体験・経験させたい」「知ることによって行動が変わる」「何をさせたいのか目的をしっかりと」など今後のテーマ設定に繋がる有意義な研修時間となった。

第5回：9月10日（土）

○ワークづくり（グループ）

ねらい：

- テーマを共有し、より良いワークづくりに取り組む。
- ワークづくりでの疑問を投げかけ解決を図る。
- グローバル視点を取り入れたワークづくりについて考える。



初めに第4回研修を終え、現時点でのワークづくりの方向性について、各自発表した。「食文化の違いから価値観の尊重について考えさせたい」「ロールプレイをすることで立場の違う人の思いに気付かせたい」「ゴミ問題から自分たちの町のために何ができるか考えさせたい」などが挙げられた。

その後、ブレイクアウトルームで3グループに分かれ、講師の先生方やJICAスタッフの方々から、疑問点等についてご助言いただき、ワークづくりを行った。最後に、エシカルファッション、ピーチクリーン、クリエイティブリユースなどの実践例の紹介や、活動を体験した後、感想を言語化する振り返りの場が大切であることを教えていただいた。ワークを通して何を伝えたいか、ゴールを明確にした上で、様々な手法を組み合わせワークづくりをしていきたいと感じた。

第6回：10月1日（土）

○ワークづくり（個人）

テーマ：● ワークづくりでの疑問を投げかけ、より良いワークづくりに取り組む

- ワークショップを仮完成させ、実践できるようにする

着地点：ワークショップづくりの疑問や悩みを共有し、アドバイスをもらいワークショップを仮完成させる。

グループに分かれ、グループ内の先生方や、スタッフと情報共有しながら、仮完成させるという流れで、疑問や不安の解消に繋げることができたので良かった。私は特別支援学校小学部4年生を対象に、海外のゲームや楽器に触れる活動を通して、海外の文化に触れると共に、友達同士の関わりをねらいとしている。JICAスタッフの方々からは、おすすめの海外の遊びや、楽器を挙げていただき、学習の手立てについて助言を頂いた。他の先生方からも、アドバイスを頂き、より児童目線で考えることができた。



今月から、実際に現場で実践していく予定だ。うまくいかないことも多々あると思うが、異文化に触れる貴重な機会と考え、児童の反応や気づきを大切にしていきたい。また学習の中で、友達同士の関わりというねらいを忘れずに、回を重ねていき、繰り返し行う中で、取り組みが単調にならないようにその都度、児童に寄り添っていきたい。

第7回：1月21日（土）

最終報告会

○報告会

テーマ：●「授業実践ほうこくかい」にて、8か月間ともに学びあった参加者で学びを共有する

- 参加教員の横のつながりを深め、今後の活動に生かす

JICA九州とJICA沖縄に、本年度共に学んだ研修者が集まり、「授業実践ほうこくかい」を行った。オンライン開催により全国の方々がご参加くださり、緊張はしましたが、この一年の学びをしっかりとお伝えしようという意気込みで望むことができた。

研修者一人一人の発表に対して、講師の庄田清人氏、前原無量氏による総評では、よりよいワークづくりに向けて、今後どのような手立てを付け加えていけばよいか詳しくご助言いただき、大変勉強になった。また、お二人の「世界が抱える課題を改善するために自分ができることを行いたい」という強い使命感を知り、お二人が経験されたJICA青年海外協力隊での学びがいかに有意義であったかが伝わってきた。私も今後挑戦したいという強い衝動を覚えると共に、お二人のような、人のために自分ができることをやりたいと心から思える人になりたいと感じた。さらに、学校教育の各教科等での学びに関連させながら、子供たちにSDGsについて考える場を繰り返し設定していく大切さをひしひしと感じた。

10名の実践は小学校から中学校、高校、特別支援学校と、校種は様々だったが、そこで活用された手法は共通しているものも多く、今後私自身の学校の実態に合わせてアレンジを加えながら試してみたいと思った。ワークの内容としては、地域の課題と世界の課題を往還させた取組、子供の実体験を基に、課題を自分事と捉えさせた取組、自分だけではない様々な立場から物事を捉えさせた取組、自分たちの行動が他国に影響を与えていることを捉えさせた取組など、様々な切り口で子供に課題意識を投げかける内容となっていた。私たち教員は、目の前にいる子供たちにどのような課題があり、どのような方法がより心に届くか、数ある手法の中から適切なものを組み合わせていく技量と、教師自身が世界の課題を解決したいという熱量をもち、指導にあたるのが求められていると感じた。

研修最終回ということで、これまで支えてくださったスタッフの方々、そして研修者の皆さんと対面でお会いする機会をいただいた。オンラインでは味わい切れない一人一人の魅力が伝わってきて、素敵な出会いをいただいたことに感謝の気持ちで一杯だ。今後もここでいただいたご縁と学びを大切にしていきたい。



研修を振り返っての感想



一ノ瀬めぐみ

長崎精道小学校

SDGsを通して、こんなに素晴らしい出会いがあり、本当にたくさんの経験をさせていただきました。まず、オンラインの研修を通して、SDGsの基本について学び、それに加えて様々な手法を学ぶことができました。ただ、事実を伝えるだけではなく、手法を学ぶことでいろいろなアプローチのやり方を知ったのは、とても良い経験になりました。また、たくさんのグループワークやワークショップを通して、たくさんの先生方との交流ができ、様々な立場や考え方を知ることができ、楽しみながら参加できました。8月のフィールドワークでは、鹿児島だけではなく世界とつながる内容は驚きの連続でした。この研修を通して、まさに「カラーバス効果」で知らないと思えなかったものが知ることで見えてくる時を過ごせました。本当に感謝の思いでいっぱいです。

『SDGs』という言葉は知っていても、どこかの誰かがやっていることで、自分とは遠い存在だと思っていました。気づいていないだけで、実は身近なところに考えるべき事柄がたくさん転がっていることに気づかされました。様々な地域で教鞭をとられている先生方に刺激を受け、いろいろな立場や経験からの考え方に触れる中で、SDGsを自分事として捉える視点を身につけることができました。ここでの学びを生徒に還元したいと考えています。



高山亮

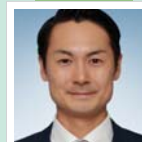
福岡市立警固中学校

これまでSDGsについてあまり考えたことがなかったので、この研修での学びの1つ1つがとても貴重な経験となりました。まずは、子供たちが世界で起きている問題について「知る」という経験を、どのようにデザインするか。そして、それらの問題を子供たちが自分事として捉えられるように、どのような活動を仕組んでいくか。JICAスタッフの方々が、とても丁寧に関わってくださり、このような学びのつくり方を教えてくださいました。ここでの経験を今後に生かしていきます。



南木清美

鹿児島県霧島市立
日当山小学校



廣松大和

学校法人岩田学園
岩田中学校・高等学校

研修プログラムを終えた今、自身がひとまわり成長できたと感じています。この研修に参加していなければ、決して得られなかったであろう知識や体験の数々が思い起こされます。各研修で学んだ知識は、オリジナルのワークショップに落とし込むことで、より深い理解に繋がったように思います。一緒に学ぶ仲間が九州・沖縄各地にいたということも、大きな励みになりました。研修の合間に参加教員の方やスタッフの方々と交わした会話も、胸に残る思い出です。濃厚で楽しい研修を提供してくださった講師の皆様と、素晴らしいプログラムをコーディネートしてくださった九州海外協力協会の皆様に、心から感謝いたします。

SDGsについては昨年から授業で柱として取り扱っていて、割と知っているはず、と思いつながら研修に参加しました。がしかし、知っていると体験するとは大違いで、オンラインでのワークショップやフィールドワークでの体験や多くの知識を持つ方々の知見に触れ、自分は「知っているつもり」だったのだと猛省しました。また、JICAの事業が海外だけに目を向けるものではなく、海外を通して地域を見る、地域活性化にも寄与するものであることを知り、JICAってすごいな、と思ったのも事実です。この研修中、私の住んでいる街ではどうだろうか、どう関連しているだろうか、と積極的に考えることができたことも大きな学びでした。この経験と感動を目の前の生徒たちに還元していきたいと思っています。ありがとうございました。



村吉多賀子

沖縄県立八重山高等学校



桑江広太

沖縄県立大平特別
支援学校 小学部

研修を重ねる中で、色々な手法を学んだり、色々な先生方やスタッフのたくさんのアイデアに触れることができ、その都度、一つ一つしっかり整理していくことで、充実した学びにすることができました。特に、フィールドワークでは、実際に色々な場所を見学する中で、SDGsの視点を育むことができました。特に印象に残っているのでは、やはり水運びです。学習の中で体験的な活動を取り入れることの効果を改めて実感できました。

また、研修では自分の考えを発信する機会が多くあり、毎回とても新鮮で刺激的でした。普段、どれほど、自分が現場で自分の意見を発信できていないかを感じ、思ったことを言葉にすることの大切さを改めて実感しました。そういう意味でも、今回の研修は私にとって非常に大きなチャレンジでした。本研修に参加して、本当に良かったと思います。



安田 裕哉

那覇市立石嶺小学校

教師国内研修に参加したことで、これまであまり SDGs について考えていなかったことに気付かせてもらえました。私たちの普段の生活から世界が抱えている課題について考える機会が少ないことから、教えている子どもたちにもきちんと指導できていないことに気付かせてもらえました。そして、本当にまだまだ何も知らないことを実感した研修期間でした。普段からあまり意識して考えていないからこそ、他人事にもなりやすいんだとも感じました。今回の学びを通し、授業づくりを行う上で、自分事になるように工夫して授業を創りました。まだまだ改善の余地はある実践となりましたが、子どもたちが、2030 年に目標達成した姿になるために、今の自分に何が出来るのかを前向きに考え、行動に移してくれました。子どもたちには今回の学習で終わりではなく、常にアップデートし、その時々で、自分に何ができるのかを考え、行動に移していくことの重要性を実感してもらえたと思います。研修での学びを生かした授業づくり・授業実践・ふり返りと、とても学びの多い期間となりました。本研修の企画・運営に携わっている方々や、快く本研修に参加させていただいた職場のみな様への感謝の気持ちを忘れず、これからの教員生活に活かしていきます。

全 7 回の研修でしたが、内容の全てがとても充実しており、あっという間の研修でした。オンライン研修では、講師の先生方から開発教育や SDGs についての基礎理解、様々なワークショップ体験をし、多くの知識や手法を知ることができました。また、夏休みに行われた 2 泊 3 日のフィールドワークでは、SDGs の視点から施設を見学したり、直接お話を聞いたりすることができました。また、オンラインでしか会えなかった各地の先生方とお会いし、授業作りについてはもちろん、日々の学校での取り組み、情報交換を行うことができ、貴重な時間となりました。このような機会を与えてくださったスタッフの方々、職場の皆様へ感謝を忘れず、今後活かしていきたいと思っています。



伊集 環

豊見城市立豊見城
小学校



古見 優奈

伊江村立西小学校

この研修を受けて心から良かった、一步踏み出して申し込みして良かったと思います。研修を受ける前は SDGs については聞いたことはあるという認識でした。しかし、この研修を通してより身近に感じることができました。特にフィールドワークでは街の中にある SDGs をたくさん見て、聞いて、自分の住んでいる地域に置き換えた時に思ったよりも SDGs は意識されているなと思いました。

この学んだことを子どもたちに伝える手法もたくさん教えて頂きました。どれも楽しく学ぶことができるものばかりで、その中のフォトランゲージという手法でワークショップを行いました。子どもたちも夢中で学習に取り組んでいました。

何より同じ気持ちでこの研修に参加した先生方と一緒に取り組めたことが良かったです。SDGs に興味はあっても一人で学ぶことは無かったと思います。この研修に参加したからこそ先生方の考えにも触れて、一緒に考えながら SDGs とはこういうことなんだと自分なりの答えに辿り着けました。この研修があったからこそ出会えた先生方との繋がりを今後も大切にしていきたいです。

開発教育・SDGs の基礎からスタートして、様々なワークショップの手法・海外での体験談やそこの課題への取り組みに対する熱意など、多くのことを学ぶことができた研修でした。鹿児島県フィールドワークにおいては、様々な視点から物事を捉えることの大切さや目的を明確にしてブレないことの重要性・限られた中での最善策の模索の実践など大変勉強になりました。授業作りには、大分苦戦しましたが、自分自身が本当に何をしたいのか何を伝えたいのかを真剣に学び・考える機会を作ることができました。生徒の学びに携わる身として、私たちも学び続けることが大切であるということを切実に感じることができました。

最後に本研修に携わって頂いたスタッフの皆様へ心から感謝致します。この機会・出会いを大切にどうぞ、これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



譜久村 太一

沖縄県立陽明高等学校

参加を迷っている方へ！



一ノ瀬めぐみ

長崎精道小学校

国際協力、開発教育、SDGsに興味があるけど・・・時間が無い、何から始めていいかわからないという人にぴったりだと思います。その理由は、オンラインということで気軽に家や学校から講義を受けることができるからです。また、海外に行きたいけど家庭や今の自分の立場上行けないと思いがちですが、日本にいながら海外の諸事情についても学ぶことができます。一步踏み出すきっかけになる素晴らしい研修です！また、普段出会えない様々な人との出会いがあります。同じ志を持った先生方やスタッフのみなさんとの出会いは、自分自身の世界を広げてくれるに違いありません。自分を変える、世界を変えるこの研修、ぜひ参加してみてください！

本研修の一番の押しどころは、出会いがあるということです。立場や経験が違う他県・他地区の先生方と出会い、意見交流をする中で、自分の考えを深めることができました。この経験は通常の学校勤務では得られないものだと考えます。SDGsという同じ学習課題について、広い視野から学びあったり、アドバイスをしあったりすることが大変刺激的でした。ここで受けた刺激をぜひ生徒に還元したいと考えています。



高山亮

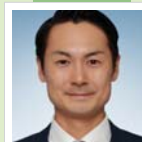
福岡市立警固中学校



南木清美

鹿児島県霧島市立
日当山小学校

私はSDGsについてほとんど無知な状態での参加でしたが、JICAスタッフの方々が個々の参加者に合わせてご助言等くださり、ワークショップを作成していくことができました。毎回の研修では、開発教育について新しく知ることばかりで、自分自身の視野を大きく広げることができました。また、九州各地や沖縄の先生方とお話する機会もあり、いい刺激をいただきました。子供たちのみならず教師自身も、アンテナを高く、世界や身近で起きていることを「知る」ということは、とても大切だと実感できたJICA研修でした。迷っている方々には、ぜひ一步踏み出すことをお勧めします！



廣松大和

学校法人岩田学園
岩田中学校・高等学校

「こんなに素晴らしいプログラムがあったのなら、もっと早く知りたかった！」と思えたほど、あまりにも充実した研修内容でした。日々の業務に埋もれていた過去の自分に教えてあげたいところですが、代わりにこの冊子を手にとったあなたへお伝えします。JICA九州とJICA沖縄の連携によってコーディネートされた今回の教師研修は、控えめに言って最高でした。豪華講師陣に学び、各地の先生方と繋がり(個人的にはこの点が最も刺さりました)、JICAの世界観の中で国際的な視座を得られます。日々の教員業務やプライベートとのトレードオフを天秤にかけた上で、必ずプラスになると約束します。むしろ、日々忙しい方、効率と効果を追求して業務に従事していらっしゃる先生方にこそお勧めしたいものです。それ程よく練られ、充実した研修内容でした。さすがJICAです。「研修で得られるものなんてあるのかなあ」と思っていたら、この研修に参加する前までです。この冊子を手にとっているということは、あなたはすでに一步を踏み出しているはず。さあ、今すぐ参加申し込みをしましょう！

ずっと昔、教員なりたての15年ほど前からJICAの教師海外研修があることは知っていましたが、参加したいと思い続けてきました。しかし仕事や子育てに追われ申し込むことすら出来ず、ようやく申し込めると思った時には国内研修。少し残念に思いながらも、時機を逃したくない思いから申し込みを決めました。ちょっと残念な気持ちも、参加してみたらすぐに吹っ飛びました。自分で学ぶにはSDGsは広くて深すぎる。しかし研修では専門家からその本質を学ぶことが出来ました。また、ワークショップやフィールドワークではすぐに教材化できるような手法や実践事例を教えてくださいました。また、同じく研修に参加した先生方は向上心が高く学ぶことに貪欲な方々ばかりでした。私は高校ですが、小・中の先生方と一緒に参加することで、ずっとモヤモヤしていたSDGsの系統的な学びについて考えることも出来ました。とにかく学びの多い研修です。参加しようかどうかどうしようか、迷われているアナタ、ぜひ参加してみてください。



村吉多賀子

沖縄県立八重山高等学校



桑江 広太

沖縄県立大平特別
支援学校 小学部

私が本研修に参加した率直な動機は、SDGs って具体的になんだろう？という疑問からでした。世間でも、持続可能な開発目標の番組、企業での取り組みが注目されています。そんな中、教育現場でも、SDGs の視点、学習が必要とされています。じゃあ SDGs って具体的になんだろう、授業の中でどう取り組んでいけばいいのだろうという疑問をずっと持っていたので、思い切って参加しました。

初めは、SDGs について知らないことだらけで、緊張して不安だらけでした。でも研修はアットホームな雰囲気、基本的なことから学ぶことができました。話し合いの場では、相手の言葉を受け入れるという雰囲気づくりをスタッフから作ってくれて、とても話しやすかったです。実際、何でも気軽に相談できました。

また、研修に参加している、他の県や校種の先生方とのつながりが構築できたことも、私にとって財産となりました。今年度の参加者は、特別支援学校からの参加が私だけということもあり、悩みや疑問を共有について不安がありましたが、同じく SDGs への学習意欲を持つ先生方と研修を重ねていく中で、他の校種ならではのアイデアや視点を学ぶことができました。また研修に限らず、学校の様子、県の様子を共有でき、とても有意義なものになりました。安心感が持てる、同じ志を持つ仲間ができたことは、本当にありがたいことでした。本研修を通して、SDGs や国際理解教育に関する考え方や視点を学ぶことができましたと思います。色々な授業での手法、フィールドワークを介した視点、また、他の研修の紹介もあり、充実した研修でした。参加を迷っている先生は、是非、一歩踏み出してほしいと思います。参加してよかったと思える実りが実感できると思います。

今では耳にしない日はないくらいに世間に広まっている「SDGs」という言葉があります。学習指導要領にも「一人一人の生徒（幼児・児童）が、～持続可能な社会の創り手となることができるようにする…ことが求められている。」とキーワードが出ているくらいに、私たち教師にとってとても重要な教育の一つだと思います。しかし私は「SDGs」についてほとんど知りませんでした。そんな中、JICA 国内研修の案内を目にし、興味があったので応募させていただきました。実際の研修では JICA スタッフのみなさんから SDGs の基礎的なことから、授業で使えるワークショップの方法や理論を詳しく丁寧に教えていただけました。そのお陰で、今では「SDGs」の 17 の目標と各教科とを関連づけて授業づくりをしようと意識するようになりました。教師の意識が変わると学級の子どもの意識が変わります。意識が変わると行動が変わります。そして、その行動が習慣化してきます。持続可能な社会を創るために、まずは教師自身が学ぶことで、教室の中から何かを変えていきませんか！？本研修での学びがとてもオススメです！！迷っているなら…まずはアクションを起こしてみませんか！？



安田 浩哉

那覇市立石嶺小学校



伊集 環

豊見城市立豊見城
小学校

私が本研修を申し込んだのは、世の中でよく耳にする SDGs についての知識が乏しく、授業でどのように扱えばいいのかわかっていたからです。そんな時に、本研修があることを新聞で知りました。しかし、元々受身的な私なので申し込むべきか悩みましたが、行動しなければ何も変わらないと思い、今回の参加に至りました。実際に参加してみると海外での経験が豊富な講師陣から貴重なお話を聞いたり、様々な手法を学んだりと素晴らしい時間を過ごすことができました。そして参加して良かったと 1 番思えたことは、九州各地の先生、様々な校種の先生と繋がることができたことです。先生方との出会いは大変刺激になり、教師としての仕事を改めて頑張ろうという気持ちになりました。ちょっとした勇気で行動が、未来が変わるかもしれません。ぜひご参加してみてくださいか？

SDGs について知りたい、学びたいと考えていらっしゃる方はぜひ参加すべきです。研修のプログラムはスタッフの方々から私たちが SDGs について深く学べるようにと緻密に考えてくださっていて、何から学んでいいのかわからないと思っていた私にとってはとてもありがたいことでした。また、講師方からのお話を聞く機会も多く設けられておりプロの経験や実践からも学ぶことができました。

また 1 人ではなく、たくさんの先生方と学び合うことができるのも魅力のひとつです。さまざまな校種からの参加で、それぞれの校種からの視点や考え方に触れることができ勉強になると同時に自分の見ている子どもたちにも活かせることがたくさんありました。

楽しく学ぶことができる研修はなかなかないと思いますが、この研修はそれが叶います！迷っている方はぜひ一歩踏み出してほしいと思います。



古見 優奈

伊江村立西小学校



譜久 村 太一

沖縄県立陽明高等学校

現在担当している「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の参考になればと思い、応募しました。正直、SDGs を理解した上での参加ではありませんでしたが、研修を通して SDGs が目的ではなく、ツールとして活用していくことが大切だと学ぶことができました。本研修を通して、本当に多くのことを学ばせて頂きました。その中で特に参加して良かったことが 2 つあります。1 つ目は海外経験を持つ講師の方々や鹿児島県でのフィールドワークで出会った方々の様々な体験を聞くことができたこと、そのエネルギー・熱意を感じることができたことです。学校業務の中だけでは学ぶことができない内容を沢山学ばせて頂きました。2 つ目は九州・沖縄の先生方との繋がりを作れたことです。オンラインでの研修であり、実際に会って話をできたのは数日間ですが、同じ学びをした仲間として感じています。これからもこの繋がりを大切に互いに高め合っていきたいと思っています。もし参加したいと少しでも考えたのであれば、色んな理由は置いて、応募してみましょう♪一歩踏み出せば、体は自然と歩き始めます。(私はそうでした♪)

グローバルを
身近に！



講師：前原

- ・鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター 職員
- ・Beyond SDGs イノベーション学会 会員
- ・県内外で SDGs プログラムの開発・研修を实践

今回の研修で講師をさせていただいたカピックセンターの前原です。本研修では学校現場でSDGsに関する教育や開発教育などを行うにあたり、学校現場ですぐに使える手法の紹介や地域でのフィールドワークのやり方なども講義に取り入れました。“グローバル”という視点は、ややすれば自分たちと遠い世界のように見えるかもしれません。しかし多文化共生、平和教育、気候変動など私たちの地域に関わる内容も多いので、ぜひこのような研修に教員の皆様が参加していただければと思います。

すぐに授業で
活かせる！



講師：庄田

- ・ちくご川コミュニティ財団 理事
- ・SDGs de 地方創生 公認ファシリテーター
- ・学校現場等で多数 SDGs 講座を開催

本研修でSDGsを担当したちくご川コミュニティ財団の庄田です。SDGsが発表され、7年以上が経過しました。日本では学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」という言葉が明記され、認知度は非常に高くなっています。SDGsは常識になりつつあり、いかに実践するかが重要と感じています。研修ではSDGsの基礎からカードゲームを活用したアクティブラーニング、地域でのSDGs実践例の紹介など、すぐに授業に取り入れられる内容を実施しました。学校現場に活かせるヒントが必ずあります。ぜひ、研修にご参加ください！

ワークショップ集

26~92P

ここからは、今年度参加した先生方のワークショップを掲載します。

SDGsをテーマにワークを行いたい！参加型教育・国際理解教育を行いたい！と思っているみなさまの役に立てばと思います。

ぜひ、気軽に活用ください

ワークショップ作成者リスト

テーマ	名前	所属
外国の事をもっと知ろう	伊集環	豊見城市立豊見城小学校
「食」から考える価値観の尊重	南木清美	鹿児島県霧島市立 日当山小学校
「世界の文化に触れよう！」 ～ Let's Dancing ～	桑江広太	沖縄県立大平特別支援学校 小学部
「守ろう！世界の海 私たちの海」 ～話し合いで深める SDGs ～	一ノ瀬めぐみ	長崎精道小学校
アクションプランを考えよう！ ～ SDGs の達成目標とつなげた 地域の課題解決に向けて～	安田浩哉	那覇市立石嶺小学校
「給食から見える世界」 ～ SDGs の視点を通して考える～	古見優奈	伊江村立西小学校
学生たちによるわたしの SDGs アワード	高山亮	福岡市立警固中学校
「批判的思考で捉える世界と日本の貧困課題」 ～豊かさとは何か～	譜久村太一	沖縄県立陽明高等学校
「教室からパートナーシップを考える」 ～現役協力隊員とのリモート交流を通して～	村吉多賀子	沖縄県立八重山高等学校
ロールプレイで学ぶ「公正な代表 (SDGs 16)」	廣松大和	学校法人岩田学園 岩田高等学校



外国の事をもっと知ろう

作成：伊集環 所属：豊見城市立豊見城小学校

ねらい	①開発途上国の現状を知り、日本との相違点から自分自身の生活が恵まれていることに気づかせる。 ②「SDGs」の概念を理解し、自分にできることは何かを考える。
場面	小学校3年生道徳「ぼくのおべんとう」終了後に行う。
対象	小学校3年生
必要な時間	90分間
手法	フォトランゲージ
準備するもの	写真、資料、電子黒板、タブレット

時間	活動内容	工夫・留意点	備考
2分	①前時「ぼくのおべんとう」の内容を確認する。	日本のよさについて再確認する。	
10分	②グループでフォトランゲージを行い、気づいたことをまとめ、発表する。	働いている子ども達、市場の様子が映っている2枚の写真を用意し、読み取れることや想像したことをグループで話し合わせる。	各グループに2枚の写真を配布する。
10分	③写真の解説から、世界には家族を助けるために学校にも行かずに水汲みをしている子がいたり、食べ物が不足している国があったりすることを知る。	自分自身の日々の生活が恵まれていることに気づかせる。	
10分	④一部に色が塗られた世界地図を見て、どのような意味があるのか考える。	世界の約150カ国が開発途上国と呼ばれる国々であること、先進国は世界のほんの一部の国だけであることを理解させる。	電子黒板を活用し、動画を視聴する。
3分	⑤日々の学校生活の様子を写真で振り返る。	自分たちの生活と開発途上国の生活を比較し、日々の生活の中で見直すべき行動がないか思考を促す。	
10分	⑥「SDGs」という用語について知る。	「SDGs」がよりよい世界を目指すための国際目標であることを理解させる。	電子黒板を活用し、動画を視聴する。
10分	⑦SDGsの17項目の詳細について確認する。	「SDGs」17のゴールを確認する。	各グループに「SDGs17の目標」資料を配布する。
15分	⑧よりよい世界にしていくなために、自分ができることに、どんなことがあるのか考える。	jambordを活用し、児童に考えを書きこませる。	各児童にタブレットを用意させる。
10分	⑨各自の考えを全体で共有する。	身の回りには「SDGs」に関連する事が多くあるという事実や、すでに実生活で行っていることが「SDGs」に繋がっていることなどに気づかせる。	
10分	⑩本時のまとめ	本時の授業を通して考えたこと、感じたことを記入し、発表させる。	ふりかえりシートを配布する。

外国の事をもっと知ろう

3年1組 番 名前 ()



どの目標が一番気になりましたか？
番号を書いてください。



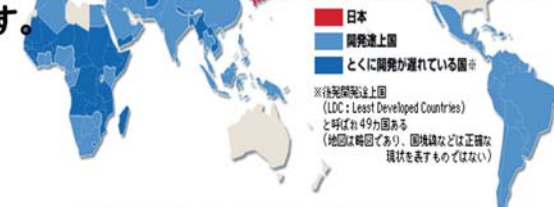
どうして気になったのか理由を教えてください。

ふりかえり（外国の事で分かったこと、SDGsについて、自分たちにできることなど）

外国の事をもっと知ろう

開発途上国（かいはつとじょうこく）には、1日にわずか100円や200円のお金で生活しなければならない人たちもたくさんいます。

そのため、学校にも行けない子どもたちや、お金をかせぐためにはたらく子どもたちもたくさんいます。



外務省パンフレット「ODA-世界と地球の未来のために」より

100円で買える物



水くみをしている子どもたち



市場（スーパー）の様子

・・・開発途上国（かいはつとじょうこく）・・・人々がうえやひんごんに苦しんで、十分な食料や飲み水がえられなかったり、教育や医りょうをまん足に受けられなかったりする国々のこと



外務省パンフレット「ODA-世界と地球の未来のために」より

200円で買える物





13歳のアイシャの1日～水を得るために～ / 日本ユニセフ協会

開発途上国（かいはつとじょうこく）でくらす人びとは、世界の人口（約61億人）の8割（わり）以上をしめています。



外務省パンフレット「ODA-世界と地球の未来のために」より

わたしたちの生活をふりかえてみよう



そこで生まれたのが、
世界の目標

「SDGs」

（エス・ディー・ジーズ）

日本語では、持続可能な開発目標（じぞくかのうなかいはずもくひょう）と言います。



2030年までに世界中にある問題を解決することを目指！



まず 貧しく困っている人をなくそう

世界には、お金も仕事も、住むところもなく、病気になってもお医者さんにいけない貧しい暮らしをしている人がたくさんいます。そんなふうに困る人が一人もいなくなるようにします。



ごはんを毎日食べられない人をなくそう

世界には、ごはんを食べられず病気になったり、死んでしまったりする人がたくさんいます。そんな人たちが生きていくために必要な食べ物を毎日手に入れられるようにします。





3 すべての人に
健康と福祉を

ずっと健康に生きていけるようにしましょう



世界では、赤ちゃんや、赤ちゃんを生んだお母さん、小さな子どもが
いろんな原因で死んでしまう国がいくつもあります。病気の知識を
広めたり予防することで、みんなが健康でいられるようにします。



4 質の高い教育を
みんなに

だれもが教育を受けられるようにしましょう



世界には学校に通えない子どもが、いまでもたくさんいます。質しい
子も、男の子も女の子も、だれもが学校に通い、しっかりと教育
を受けられるようにします。



5 ジェンダー平等を
実現しよう

女の人や女の子も、男性と平等に扱おう



女の人や女の子が「女性」だからという理由で差別されることが
たくさんあります。そんな差別をなくし、みんなが学校へ通ったり、
働いたり、政治に参加したり、リーダーになれるようにします。



6 安全な水とトイレ
を世界中に

安全な水とトイレをすべての人に



世界には、よごれたままの水を飲んだり、使うことで病気になる
人がまだたくさんいます。トイレも清けつなものは限りません。
みんなが安全な水や清けつなトイレを使えるようにします。

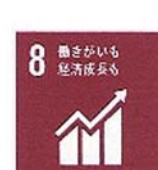


7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

自然の力でつくるエネルギーをみんなに



石炭や石油など掘りがあり、燃やすことで地球温暖化の原因と
なるようなエネルギーではなく、太陽の光や風、水力などの自然の
力で作るエネルギーを、だれでも使えるようにします。



8 働きがいも
経済成長も

すべての人にやりがいのある仕事を



世界には学校にいかずに働く子どもや、わずかなお金で大変な
仕事をしている大人が数多くいます。みんながやりがいを感じ、
きちんとお金を得られる仕事ができるようにします。



9 産業と経済革新の
基盤をつくらう

暮らしを支える土台をつくらう



だれもが安心して安全に暮らせるように、災害に強い建物や、水道・
ガス・電気・インターネットなどをととのえて、新しい技術がたく
さんうまれるようにします。



10 人や国の不平等
をなくそう

国や、国の人同士の不平等をなくそう



国によって、豊かな国もあれば貧しい国もあります。同じ国の中
でもお金持ちの人もいれば、貧しい人もいます。そんなちがいが
なくなるように、みんなで助け合います。



11 住み続けられる
まちづくりを

ずっと住み続けられる安全安心なまちを



災害に強いまちや、豊かな自然のあるまち、障がいをもった人や
お年寄りも安心して暮らせるまちなど、みんながずっと住んでい
たいと思えるような暮らしやすいまちにします。



12 つくる責任
つかう責任

資源をムダにせずつくらう、使おう



ものをつくる人は、資源を大切に、自然や人に悪い影響を与え
ないようにします。ものを使う人も、ゴミを減らしたり、くり返し
同じものを使うリサイクルなどを心がけるようにします。



13 気候変動に
具体的な対策を

気候の変化による影響を少なくしよう



二酸化炭素などの温暖化ガスを出さないようにしたり、異常気象
に対応できるまちづくりをしたり、気候の変化による影響をできる
限り少なくするよう、行動を変えていきます。



14 海の豊かさを
やろう

海の自然と海の生き物を守ろう



海をゴミなどで汚さないようにしたり、海の生き物をたくさん
とりすぎないようにしたりして、これからも生き物たちがたくさん
いる、きれいな海を守っていきます。



15 陸の豊かさも 守ろう

陸の自然と生き物を守ろう

砂漠になってしまう場所を減らしたり、動物や虫などが暮らす自然を大切に守ったりして、人間も含むたくさんの生き物がこれからもずっと生きていけるようにします。



16 平和と公正を すべての人に

争いや暴力のない平和な世の中に

世界には、戦争やふん争、虐待などで傷つく人がたくさんいます。こうした争いや暴力のない、平和に暮らせる世の中にします。また、法律による裁判をどの国でも受けられるようにします。



17 パートナースHIPで 目標を達成しよう

目標のためにみんなで力を合わせよう

2030年までに、これらの目標をかなえられるように、国や自治体、企業など、世界中の人たちが協力し合います。また、豊かな国は貧しい国をお金や技術で助けるようにします。



よりよい世界にしていくために、わたしたちができることには、どんなことがあるのか考えよう！



「食」から考える価値観の尊重

作成：南木清美 所属：鹿児島県霧島市立日当山小学校

ねらい	○住む国や地域、または人によって食文化は異なり、またそれらは文化や価値観の違いからくるものであることに気付くことができる。 ○食文化の違いから多様性を実感し、自他の文化や互いの価値観を尊重し合うきっかけとすることができる。
場面	外国語、グループ学習（3～4人）
対象	小学校5年生
必要な時間	45分間
手法	フォトランゲージ・ランキング
準備するもの	授業支援システムの一つである ロイロノート・スクール写真で学ぼう！[地球の食卓] 「地球の食卓」は認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）発行の教材です。 詳細は http://www.dear.or.jp/ を参照してください。

時間	活動内容	工夫・留意点	備考
導入 10分	1 『地球の食卓』からの写真を見て、グループで気付いたことを自由に書き出す。 手法：フォトランゲージ 問い：写真を見て、気付いたことや疑問に思ったことを、できるだけたくさん書き出しましょう。 2 グループで話し合う。 3 学級全体で話し合う。 問い：ここはどこでしょう。 どのような人たちでしょう。 主食はなんでしょう。 自分の生活と似ているところは、違うところは？	○子供たちが写真に写っているものだけでなく、写真に写っている人の立場に立ち、その人の思いを想像してみることで、異なる文化の人々の暮らしを共感的に理解できるようにする。 ○同じ写真を見て、人によって異なるイメージを持つことに気付く、友達同士でも物事の多様な捉え方があることを知ることができるようにする。	※ロイロノート・スクールで写真を共有する。
5分	4 日本にはない食文化の写真を見て、視覚的に分かることや見て感じたことを全体で自由に話し合う。 （※フランス：エスカルゴなど）	※自分が当たり前だと思っていた価値観について改めて考えることができるようにする。 ※問い ○どう思うか。 ○なぜ、そう思ったか。 ○どこを見てそう思ったか	※ロイロノート・スクールで写真を共有する。
10分	5 4の写真の中から、食べてみたい食事のランキングを考える。また、なぜそう思うのか理由も友達に伝える。 手法：ランキング	※順位をつけることが目的ではなく、互いの主張の背景には様々な理由があることに気付くということを大切にしたい。	※ロイロノート・スクールで写真を共有する。 ※ロイロノート・スクールの提出箱にグループの考えを提出させ、考えを共有する。
10分	6 日本でよく食べれている食べ物写真を見て、外国の人が食べたいと思わないものはどれか想像し、考えを共有する。	○特にたこに焦点化を図る。たこは、デビルフィッシュと言われ、食べない国も多い。しかし、日本では世界の中でたこの消費量が一番多い。	※ロイロノート・スクールで写真を共有する。 ※ロイロノート・スクールの提出箱にグループの考えを提出させ、考えを共有する。
10分	7 4の写真に戻り、どのような背景でその食べ物を食べるようになったか考えさせる。全体で気付いたことや意外だったことなど感想を共有する。	○食文化はその国の環境や文化に根付いていることなどに気付かせ、互いの食文化を尊重する大切さについて考えることができるようにする。	

「食」のちがいから考えよう

5年()組 名前()

皆さんは、外国語の学習で、世界のいろいろな国のみりよくについて知ることができましたね。今日は、いろいろな国のみりよくの中から、特に食文化についてとりあげ、「食」のちがいから世界を見ていきたいと思います。

1 「地球の食卓」の写真を見て、気付いたことを書きましょう。

- ☐ ここはどの国？
- ☐ どのような人？
- ☐ 主食は何？
- ☐ 自分の生活とにているところは？
- ☐ 自分の生活とちがうところは？



2 日本にはない食文化の写真を見て、感じたことを書きましょう。

3 日本にはない食文化の写真を見て、食べてみたい食事のランキングを考えてみましょう。また、1位に決めた理由も書きましょう。

1 位

2 位

3 位

4 位

5 位

〔1位に決めた理由〕

4 日本でよく食べられている食べ物の写真を見て、外国の人が食べたいと思わないものはどれでしょうか。理由も書きましょう。



納豆



豚肉



卵ごはん



たこ焼き



おさしみ

〔理由〕

5 今回の授業の中で、「食」のちがいから考えたことや授業の感想を書きましょう。



「世界の文化に触れよう！」 ~Let's Dancing~

作成：桑江広太 所属：沖縄県立大平特別支援学校小学部

ねらい	①海外の歌やダンス等の体験を通して、色々な文化に触れる。 ②海外の歌やダンス等の体験を通して、文化の違いを知る。 ③沖縄の文化を知る。
場面	特別活動の時間
対象	特別支援学校小学部4年生男子15名、女子5名 主な有する障害：自閉症、ダウン症候群、ソトス症候群等
必要な時間	特別活動（45分）
手法	ロールプレイ
準備するもの	タブレット、スライド、海外の歌やダンス、海外の文化についてクイズ

時間	活動内容	工夫・留意点	備考
1分	①始めの挨拶	・言葉かけ等必要に応じて支援を行い、発語（号令）を促す。	
14分	②海外の文化に触れる SDGs 4、10、16 ・文化という言葉に触れる。 ・海外の文化を、国旗や写真、動画を見て知る。 ・クイズを行う。	・食べ物、踊り、衣服等、イラストを用いて児童の馴染みのあるものを取り上げ、「文化」という言葉の意味に触れる。 ・サッカーW杯等、最近の話題も織り交ぜながら、海外文化に関するクイズを行う。	・タブレット (スライドの提示)
25分	③海外の音楽に親しむ。 ・海外の音楽に合わせて、歌ったり、踊ったりする。 ・最後に、エイサーを踊り、沖縄の文化にも触れる。	・動画を提示し、模倣を促す。 ・必要に応じて、手添え支援等、身体表現を促す。 ・自分達の住む地域、島の文化にも触れ、沖縄文化に気づくことができるようにする。	・タブレット (スライドの提示)
4分	④感想発表 ・活動を通しての気持ちを発表する。 例：誰と、遊びをしてどんな気持ちになったか。	・必要に応じて、イラストの提示や、言葉かけなどして支援を行う。	・タブレット (活動を振り返るよう他の教師が写真を撮る) ・パーランクー、パチ
1分	④終わりの挨拶	・言葉かけ等必要に応じて支援を行い、発語（号令）を促す。	・タブレット (友達の写真、遊びのイラスト、気持ちを表すイラスト)

備考

①様々な国の遊び体験から、音楽・ダンスに題材を変更した理由

文化を体験、知るきっかけになるために、児童には楽しさを感じてほしかった。ゲームでも、色々な楽しさを時間で、また友達との色々な関わりを持てる場であるが、時数との兼ね合いを考慮し、限られた時間で、より多くの文化や楽しさに触れることができ、また、より子ども達の実態にあった、取り組みとしてダンス（より体験的なもの）を選んだ。

②安全面への配慮→児童が安心して活動に参加できるように環境設定に配慮した。例：なるべく教室を広く使うことができるように、危険物や机等を外に出しておく。特に支援が必要な児童のそばに他の教師を配置する。

③文化の紹介では、なるべく児童が興味を持つことができるような身近なもの（食べ物、服装、学校の様子）などを動画等を用いて紹介した。

参考文献

- ・「総合学習に役立つ 世界の外遊び」こどもくらぶ
- ・「世界の子どもの遊び 文化の違いがよくわかる！」PHP
- ・「国際理解に役立つ 世界の遊び アジアの遊び」ポプラ社
- ・「特別支援教育ですぐに役立つ ICT 活用法」学研

ダンスの種類

- ・チェッチェコリ（ガーナ）
- ・A Ram Sam Sam（モロッコ）
- ・ロンドン橋（イギリス）
- ・ゆかいな牧場（アメリカ）

参考動画

- ・「♪チェッチェコリ〈振り付き〉【ダンス】」ボンボンアカデミー
https://www.youtube.com/watch?v=KvxFD2Ca_e8
- ・「Senaman A Ram Sam Sam」adib faiz
<https://www.youtube.com/watch?v=0oGsG05Fs5c>
- ・「【River Rise】英語歌「London Bridge」(ロンドン橋)」RiverRiseChannel
<https://www.youtube.com/watch?v=m2z0eqmtVjM>
- ・「♪ゆかいな牧場〈振り付き〉」ボンボンアカデミー
<https://www.youtube.com/watch?v=KzrDeite6rE>
- ・「【イギリス旅行】絶対に訪れるべき観光スポット TOP10〈お家で旅行〉」【World Tour】世界を巡る旅
<https://www.youtube.com/watch?v=18BBb9t9SsM>

いろいろな だんすを しょう



1

てあそびうた

アラム サム サム



2

モロッコ



3

こんなところ



4

こんなところ



5

Q この たべものの なまえは？



①くすくす

②がはがは

6

let's travel



7



8



<https://youtu.be/GCWZJfKa3DA>

9

アラムサムサム やってみよう



<https://www.youtube.com/watch?v=0Ux3C00f95c>

10



「守ろう！世界の海 私たちの海」 ～話し合いで深めるSDGs～

作成：一ノ瀬めぐみ 所属：長崎精道小学校

ねらい	海のプラスチックの問題を知り、人間の消費生活と海の問題につながりがあることに気付く。 自分の生活をふりかえって、何ができるか考える。
場面	総合的な学習の時間
対象	小学校 5 年生
必要な時間	45 分
手法	ロールプレイ
準備するもの	ロールプレイカード、ワークシート、シナリオカード

時間	活動内容	工夫・留意点	備考
5 分	1. 動画を見る 世界につながる教室（水と世界）		
7 分	2. 進め方の説明と役割分担 ・現状を伝え、役割を決める 「長崎に新幹線が開通して、たくさんの方が長崎にやってきています。そこで、世界のプラスチックの問題について話し合いに参加してもらいます。」 ① N 大学環境科学部の先生 ② 魚市場 ③ かもめ ④ 釣り人 ⑤ 海外観光客 ⑥ カステラ屋 ⑦ ごみ処理施設 ⑧ ペットボトル	・ 3 人の 8 グループに分かれる ・それぞれのグループから、代表を一人決める	
15 分	3. ロールプレイの実施 ・役割になった人は、気持ちを込めてシナリオを読む 4. グループ討議 ・共感したこと、違和感を感じたことを話し合う ・これからできる新しいアイデアを考える 5. ふりかえり ・グループで話し合ったことを全体共有する ・考えたことをふりかえる	・前に出て、役割の台詞が書かれているカードを持ちロールプレイを行う。 ・役割を演じた人と違う人が発表を行う。	・ロールプレイカード ・シナリオシート ・ワークシート

世界の海 世界の水 長崎みらいの海会議 シナリオ

長崎に新幹線が開通して、たくさんの方でにぎわっています。

おや、海の近くでなにやら話し合いが行われています。少しのぞいてみましょう。

① N 大学 環境科学部 ひるくら先生 	どうも、N 大学でごみの研究をしているひるくらです。 今、海の生き物たちが大変です。 プラスチックの排出量は日本は世界2位です。 ゴミの量が2050年には魚の量を超えるそうです。魚市場のよしながさん、魚の水揚げはどうですか？
② 長崎魚市場の よしながさん 	魚は年々漁獲量が減っています。ごみの問題なのでしょうか。魚を食べない人も増えていて、なかなか魚も売れていないのが現状です。 確かにたまにペットボトルが水揚げされている時もあるみたいです。将来安全に魚を提供できるのか。心配です。
③ かもめちゃん 	痛いよ～。見て下さいこの姿。釣り糸がからまって動けません。最近、こんなゴミも多いし、エサの魚も減っているし困っています。 この前は、友達が突然亡くなりました・・・（泣）おなかがいっぱいで食欲がないと言っていたらそのままです。海の呪いなののでしょうか？
④ 釣り人 すずきさん 	かもめさん、ごめんよ。釣り人が捨てた糸がこんなことに・・・。 私はちゃんと分別していますが、中にはペットボトルが海に落ちててもそのままにしている人もいます。そういう人に罰金とかしたらどうですか？ペットボトルはどこでも買えて便利なので、買わないことはできません。長崎の海は魚が美味しいのでいつまでも釣りを楽しみたいです。
⑤ 中国からの 観光客ワンさん 	ニーハオ！新幹線が開通して、初めて長崎に旅行にきました。長崎は海がきれいかなと思って期待して来たのですが、意外と海にごみが浮いているのが残念です。中国の海岸には日本語が書かれたものが流れ着きますが、そのせいだと思います。中国の分別は厳しいですから。長崎の人たちってごみの分別しているのでしょうか？
⑥ カステラ屋の ふくめいどうさん 	長崎に新幹線が通って大忙しです。特に今回は小分けにしたカステラが売れています。小分けにするとプラスチックは使いますが、そちらが人気なので仕方がないです。そのかわり、自然にやさしいプラスチックに変えるようにしています。そちらもお金がかかるので、全部そうするわけにはいきません。こちらも生活がかかっていますから。

⑦ゴミ処理施設の やまぐちさん 	長崎もごみの分別きちんとしています。確かにコロナ禍で持ち帰りが増えて、プラスチックの量は増えています。もっときれいに洗ってくれたら、こちらも助かるんですけど。鹿児島の大崎町は焼却施設がなく、ごみの分別もしっかりされていると聞きました。 このままでは大変なので新しい施設を作ることを検討しているそうですが、それにも莫大な資金がかかるそうです。海のプラスチックの問題があるので仕方ないですかね。
⑧ペットボトルくん 	いろいろご迷惑をおかけしています。ぼくができたころは、便利だ便利だと言って、人気だったのですが、今は困ったものになっているのですか……。悲しいです。ぼくたちは海の中では沈むのです。海に行ったら、海の底でどんどんマイクロプラスチックになってしまいます。ぼくたちもちゃんとリサイクルして生まれ変わりたいと願っているのです！なんとかしてください！
①N 大学 環境科学部 ひるくら先生	みなさんいろいろな意見をありがとうございます。 これからの長崎の海、いや世界の海を守るために、あとは、未来を守るみじょ娘のみなさんに話し合ってもらいましょう！

グループの考え

ふりかえり



作成：安田浩哉 所属：那覇市立石嶺小学校

課題解決のためのアクションプラン		名前:	月	日	()
※    を視点に、どのように解決に向かっていけるのか自分たちで行うアクションプランを考えよう！					
石嶺地域の中心課題:		連携する課題:			
<アクションプラン>		<アクションプラン>			
		連携する課題:			
		<アクションプラン>			

児童の記入したアクションプラン例

53

石嶺地域の課題&連鎖する課題→アクションプラン

石嶺地域の課題	目標	連鎖する課題 ※自分たちで解決に向かえそうな課題	アクションプラン ～セカンドステップ～
・ポイ捨て(A) 4人	3	・まちがきたない 11 ・物を大切にしている 12	①ピッコロモンドに石嶺のポイ捨て問題について訴えるポスターを貼らせてもらう ②石嶺で拾ったゴミでゴミアートをつくり地域の方に現状を知らせる(備っこ発表会後、石嶺駅にて) ③備っこ発表会にて現状や解決策を伝える
・ポイ捨て(B) 3人	11	・陸がよごれる 15 ・川や海がよごれる 14	①サンエーに川にポイ捨てすることで海が汚れることを訴えるポスターを貼らせてもらう ②石嶺で拾ったゴミでゴミアートをつくり地域の方に現状を知らせる(備っこ発表会後、石嶺駅にて) ③備っこ発表会にて現状や解決策を伝える
・事故が起こる 3人	11	・車のじゅうたい 8 ・地球温暖化 13	①ガソリンスタンドの方と協力して、安全運転を心がけるようなカードを配らせてもらう ②備っこ発表会にて現状や解決策を伝える
・金魚すくい(生き物の命)A 5人	15	・治安が悪化する 11 ・残飯が増す 2	①新聞社に生き物が保護されていることに関する内容を作文として投稿する ②残飯問題についての作文を新聞社に投稿し、学年、学校新聞で配らせてもらう ③備っこ発表会にて現状や解決策を伝える
・金魚すくい(生き物の命)B 5人	16	・世話をしない 16 ・森が減る 15	①ドラッグインに生き物のかわいさやこよさをアピールしたポスターを貼らせてもらう ②備っこ発表会にて現状や解決策を伝える
・食べ残し 3人	2	・残飯が増える 12 ・治安が悪くなる 11	①ファミマに食べ残しに関係するポスターを貼らせてもらう ②備っこ発表会にて現状や解決策を伝える
・道がせまい 3人	11	・事故が起こり人がひかれるかもしれない 3 ・ミラーを付ける場所が少ない 11	①石嶺駅に歩行者が安全に歩行できるよう意識してもらえそうなポスターを貼らせてもらう ②備っこ発表会にて現状や解決策を伝える
・緑のある公園が少ない 5人	11	・運動不足 3 ・愛着が減る 11	①玉那覇さんを経由し、市役所の方に理想の公園のスケッチを送る ②ドッチボール大会を開催する ③備っこ発表会にて現状や解決策を伝える

「あるべき未来像」を実現するために今やるべきことを未来から逆算して考え、行動すること。
現在ではなく未来の姿をもとに考えていくことが大切。



リソースマップ



板書



実際に貼らせてもらったポスター



作成したごみアート





「給食から見える世界」 ～SDGs の視点を通して考える～

作成：古見優奈 所属：伊江村立西小学校

ねらい	フォトランゲージを通して、給食の残量が世界に与える影響を知り、自分たちの課題として捉える。
場面	総合的な学習の時間
対象	小学校 6 年生
必要な時間	1 時間
手法	フォトランゲージ
準備するもの	写真、付箋、ホワイトボード

時間	活動内容	工夫・留意点	備考
導入	① SDGs について振り返る。 ■ SDGs とは何でしたか？ ② フォトランゲージという活動を行うことを知る。 ■ 写真からいろいろなことを想像しましょう。	◆ 本時の学習も SDGs に関連する学習だと捉えさせる。	
	めあて：写真を見て、想像できることをグループで話し合おう。		
7 分	③ フォトランゲージの説明を聞く。 ■ 写真を見て、分かることや想像したことを話し合う活動です。 ④ フォトランゲージを行う。 ・ 1 枚の写真について話し合う。 ・ 4 枚の写真を見て話し合い共有する。 ■ 次は 4 枚の写真を見て考えてもらいます。 グループで活動しましょう。 ⑤ 写真同士の関連性を知り、自分たちの課題を考える。 ■ 写真とみなさんはどのような関係がありますか？ ⑥ 給食の残量と関連する SDGs を考える。	◆ 正解、不正解に関係なく考えたことをとにかく自由に話していいことを伝える。 ◆ 1 枚の写真を使って練習する。 ◆ 写真を見て分かることと想像したこと両方を出させる。 ◆ 区別がつかない場合は個別で説明する。 ◆ 4 枚の写真に関連させてストーリーを考えても良いことを伝える。 ◆ 全体共有後に 5 枚の写真的関連を説明する。 ※ 給食を残す→残飯を焼却し二酸化炭素が発生→地球温暖化の促進→気候変動による被害 ◆ 自分たちの給食の残量が世界に影響を与えていることを再度考える。 ◆ どのように関連しているのか理由まで考えよう促す。	準備：写真 ワークシート  準備：写真、付箋 
まとめ	⑦ まとめと振り返りを行う。	◆ フードロスについて次時調べることを伝える。	

参考資料

(1) フォトランゲージで用いた写真

1 回目：練習用 食事を待つアフリカの子どもたち



4枚の写真の関連性
給食を残すと、残飯はゴミ処理場で焼却される。ゴミを焼却すると二酸化炭素が出て地球温暖化を促進させる。地球温暖化が進むと世界各地で気候変動が起こる。

2 回目：グループ活動



1 日 平均
2kg





学生たちによるわたしの SDGs アワード

作成：高山亮 所属：福岡市立警固中学校

ねらい	10月14日(金)SDGs が叫ばれている背景や SDGs 全体の概略、身近な SDGs について、調べ学習を行う中で、中学1年生が SDGs を考え始めるきっかけとしたい。
場面	総合的な学習の時間
対象	中学1年生
必要な時間	17時間+課外
準備するもの	THE SDGs アクションカードゲーム X、ゴー・ゴールズ、タブレット端末

時間	活動内容	工夫・留意点	備考
1 コマ	10月14日(金)	福岡 SDGs 協会より講師を招聘し、導入とする。	
2 コマ	10月21日(金)	今後の調べ学習についての見通しについて説明し、導入としてゴー・ゴールズ(国連が作成した SDGs すごろく)を実施。	
3 コマ	10月28日(金)	THE SDGs アクションカードゲーム X でイノベーションの考え方を身につける。	
4 コマ	11月4日(金)	・マイ SDGs を記入し、自分の関心事を周囲に伝える。 ・班のメンバーのそれぞれのマイ SDGs を連鎖させて、すべてを解決するような取り組みを探究する。	
5 コマ～15 コマ	11月～1月	4コマ目の探究活動を深め、班ごとに調べ学習を行い、まとめる。	スライドを班で1つと掲示用にドキュメントで1枚にまとめる。
16 コマ	1月30日(月)	作製したスライドを使って教室で発表会を行う。	投票によりクラス代表作を1つ選出する。
17 コマ	2月3日(金)	クラス代表作を学年で発表する。	保護者参加型とし、生徒保護者の投票により学年代表作を選出する。
課外	2月18日(土)	学年代表作を福岡市科学館にて一般に向けて発表する。	※新聞やテレビが取材予定

警固中学校 1年総合 SDGsについて考える



SDGsについて考えるためのキーワード

- ①だれ一人取り残さない
- ②自分事として
- ③SDGsは連鎖する
- ④協働する
- ⑤イノベーションを起こす
- ⑥アウトプットする



SDGsについて考えるためのキーワード

- ①だれ一人取り残さない
- =SDGsの基本理念

つまり、SDGsって…

人類やあらゆる生命が将来に
渡って地球上にずっと生き続け
られるように社会や世界を
よりよくしていくための目標

当然、教室の中も同じです！



SDGsについて考えるためのキーワード

②自分事として

自分だって取り残されない！
 自分にかかわる問題も必ずある！
 『どこかの誰かが〜』と考えない！
 近い将来の自分の姿を想像してみてください！
 あなたが住む地球 私が暮らす地球
 ⇒他人任せでいいですか？



SDGsについて考えるためのキーワード

③SDGsは連鎖する

例えば…

募金をする！

自立には教育は不可欠だ！

確かに。健康と福祉を充実させることが大事やん！

募金が滞ったら？

募金って本当の意味での自立って言える？

健康じゃないと勉強もできないよね？

募金が貧困から抜け出すための最適解とは限らない。
 17個の目標が独立して存在しているわけではない。



SDGsについて考えるためのキーワード

④協働する

予測困難で複雑な社会

1人で解決できる問題はない！
 (全員が自分事として)

↓
 全員の力や知恵を結集して
 次の社会をよりよくしよう！！



SDGsについて考えるためのキーワード

⑤イノベーションを起こす

課題の解決方法は1つではない！
 当たり前は当たり前ではない！
 新しい感覚が新しい価値を生む！

イノベーション

新しい考え方を否定しない！！



SDGsについて考えるためのキーワード

⑥アウトプットする

SDGsって、2030年までに達成できると思う？

正解は…

できるかどうかではなく、**達成するもの！**

達成するために、たくさんの人がたくさんの事例を作って実践していくことが大事！



SDGsについて考えるためのキーワード

⑥アウトプットする

- ・マイSDGsを一つ選ぶ
- ・班でマイSDGsを持ち寄る
- ・班員全員のマイSDGsを解決するためにどうしたらよいかを協働して考える
 ※だれ一人取り残さない・自分事として
 SDGsは連鎖する・新しい考えを否定しない
 ⇒Googleスライドとドキュメントでまとめる
- ・学級/学年発表会
- ・SDGs Awardにて発表

SDGsについて考えるためのキーワード

- ①だれ一人取り残さない
- ②自分事として
- ③SDGsは連鎖する
- ④協働する
- ⑤イノベーションを起こす
- ⑥アウトプットする

今日はここ！





批判的思考から捉える世界と日本の貧困課題 ～ 豊かさとは何か ～

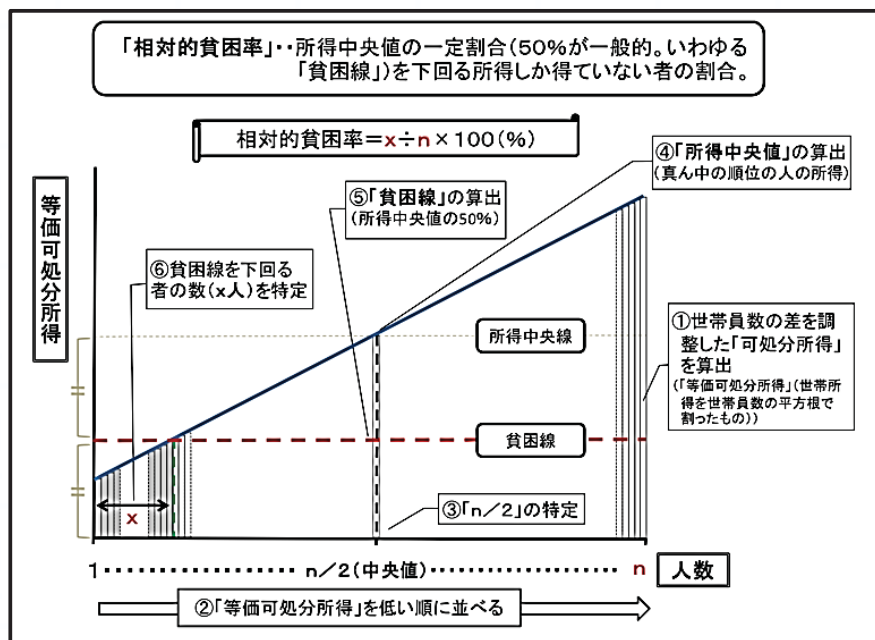
作成：譜久村太一 所属：沖縄県立陽明高等学校

ねらい	世界における貧困課題と日本の貧困課題についての違いを理解し、批判的思考を持つことで多角的な視点で物事に対する気づく力を伸ばしていく。
場面	産業社会と人間（テーマ：豊かさとは）
対象	高校1年生
必要な時間	2時間
手法	KP法（紙芝居プレゼンテーション）、フォトランゲージ
準備するもの	写真（海外・戦後の日本・スラム街）、相対的貧困率（データ）、キーワード（KP用）、付箋紙・B4白紙、ワークシート（ブレインマップ）

時間	活動内容	工夫・留意点	備考
導入	・本時の目標 ・貧困に対するイメージを質問 ・SDGsの目標1がどこに向けての取り組みなのかを確認 ・批判的思考（クリティカルシンキング）について確認	・貧困＝貧しいだけではなことを意識させる ・QUIZ形式にする事で、日本のSDGsの取り組み状況を伝える	ワークシート キーワード（KP用）
展開	・絶対的貧困と相対的貧困について説明 ① 絶対的貧困 ・国際貧困ライン（1.9ドル） ・絶対的貧困者数の（変化）（1993⇒2017） ・貧困の国別分布 - Q1. 4枚の写真を用いたフォトランゲージグループ（4名）で各写真から読み取れる事を挙げる。 ・2枚の写真がどの国か QUIZ - Q2. なぜ、開発途上国への支援をする必要があるのかを考える。 ・自分から両親、両親から祖父母への繋がりをイメージ化する。 - Q3. 海外の4枚の写真に戻り、私たちができることを考える。	・ブレインマップとし、貧困を中心にKP法を用いて物事の繋がりを捉えやすく表示させる － 姉妹で料理の手伝い（学校に行けない） － Tシャツの文字、野菜を地面に直置き － ビル群とトタン屋根の家（貧富の格差） － 鉱山で働く男の子たち － 日本も戦後、世界銀行からの支援を受けて復興 － 開発途上国における資源	国際貧困ライン（2.15ドル） 2022/10/6日経新聞より THE WORLD BANK 付箋紙・B4白紙 写真（出展）（GLOBE+） （ユニセフ） 写真（出展） コザの孤児院（琉球新報） 戦世からのあゆみ（平和祈念資料館） 付箋紙・B4白紙
展開	先程の時間で、考えた私たちができることを各グループ発表 ② 相対的貧困 ・ どのような国があるか ・ 日本の貧困はどこからをいうのか ・ どのように決められるのか ・ 日本での格差を示す指標について（ジニ係数のグラフから読み取れること） Q4. なぜ所得格差が生じるのか？	【用語確認】 ・ 等価可処分所得 ・ 当初所得ジニ係数 ・ 再分配ジニ係数 － 非正規雇用の増加（一人親世帯） － 子どもの教育格差（貧困の連鎖） － 雇用環境の低水準・地方との格差 － 生活環境→自己否定感 － 貧困層と富裕層との境界の明確性 － コミュニティの形成・孤独化	付箋紙・B4白紙
まとめ	・ それぞれの課題に対して取り組めることを考える	－ 貧困という言葉に対して も様々な視点があることを捉え、多角的に物事を見ていく必要があることを意識させる	写真（出展） （セーブ・ザ・チルドレン） （Edu Town SDGs）

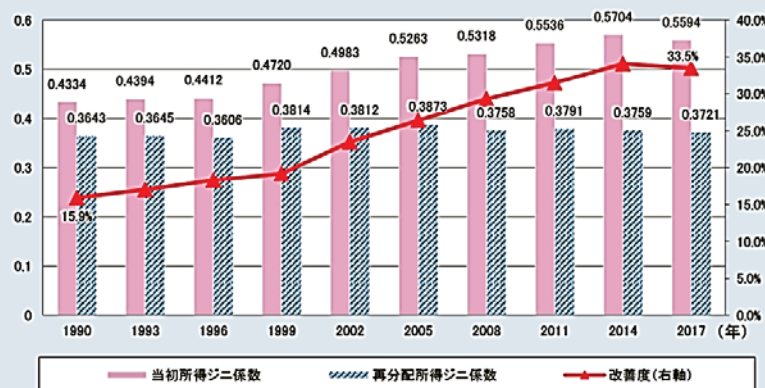
※ THE WORLD BANK (<https://datatopics.worldbank.org/sdgatlas/jp/goal-1-no-poverty/>)

『相對的貧困率』



『当初所得ジニ係数・再分配ジニ係数』

図表 1-8-9 所得再分配によるジニ係数の改善の推移



資料：厚生労働省政策統括官付政策立案・評価担当参事官室「所得再分配調査」

《産業社会と人間》

批判的思考から捉える世界と日本の貧困課題

～豊かさとは何か～

目標： ① 批判的思考を持って貧困課題について考えることができる。
② 多角的な視点を持つことで物事に対する気づく力を伸ばしていく。

年 組 番 氏名

【貧困課題におけるブレインマップを作ろう♪】

貧困

①	◇	◇	◇
②	↑		↓

評價印

【復習 QUIZ】

- Q1. SDGs1の【貧困をなくそう】。どの国に向けた内容ですか？(A.)
- Q2. 貧困には、その状態を表す2つの考え方があり、それぞれ何というか？(A.)
- Q3. Q2で答えた1は、1日あたり何ドルを指すか？(2018年時点:A. ドル)
- Q4. 1993年～2017年について、世界の貧困率は大幅に減少した。特に減少した国を2つ答えよ。(A.)
- Q5. 現在、貧困率が高い地域は、どこか？(A.)
- Q6. 日本では、貧困線率を(A.)の中央値の半分である127万として決めている。
- Q7. 日本における所得格差を示す目安として、所得や資産がどのくらい平等に分けられているかを示す係数を何というか？(A. 係数)

【振り返り】

本時で貧困課題について学び、考えてみて、感じたことや自分達ができることは何か、書いてみましょう♪
貧困課題を自分ごととして、捉えることはできましたか？(今の当たり前は当たり前では無いことを知っておこう。)

A full page of blank graph paper with a uniform grid of small squares. The grid covers most of the page, leaving margins at the top, bottom, and sides. There are approximately 20 columns and 20 rows of squares.



「教室からパートナーシップを考える」 ～ 現役協力隊員とのリモート交流を通して～

作成：村吉多賀子 所属：沖縄県立八重山高等学校

ねらい	SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」 国際的な課題を自分事として考え、解決の方法を検証し実践に繋げる。
場面	現代社会、公共、地理B、地理総合、地理探究（国際協力分野） 実際の授業：時事社会（公民科 学校設定科目）
対象	高校生（40名）
必要な時間	50分（3時間構成中2時間目）
手法	KP法（紙芝居プレゼンテーション）、フォトランゲージ
準備するもの	現地の写真、生徒用端末
事前に準備が必要なこと	隊員との連携（メール・zoom）、当日のzoomミーティングルーム作成

1. 単元構成

時間	活動内容	目的
1時間目	マダガスカルについて知ろう 米須さんに聞きたいことをまとめよう	単元の目的を共有し、交流先のマダガスカルについて知り、そこで活躍する方がいらっしゃることを理解する。
2時間目 〈本時〉	リモート交流 マダガスカルでの困りごと、解決のアイデアを考えよう	マダガスカルでの課題を自分事として捉え、解決の方法について考えることができる。
3時間目	私たちの地域の問題に視点を移そう パートナーシップを定義しよう	海外の課題と地域の課題の共通点や相違点を整理し、パートナーシップとは何かについて定義づけることができる。

2. 授業構成

時間	活動内容	目的
5分	0. 出席確認、健康観察、端末の準備	マダガスカルとzoomで繋ぐ 班は4～5名
5分	1. 前時の確認：本日交流を行うマダガスカルについて、各班で分かったことについて発表する。	発表の際にJamboardを使う。（端末は1班に1台）
15分	2. JICA海外協力隊現役隊員を紹介 協力隊員からマダガスカルを紹介を写真にて簡単に行う。	手法：フォトランゲージ 生徒は写真をみて気付いたことを写真を背景としたJamboardに書き込む
5分	3. 協力隊員から地域支援を行う中での困りごとを聞く。 協力隊員から高校生へのアイデア募集を行う。	現地との接続はここで終了
15分	4. グループでの話し合い：貧困地域で教育支援を行うことについて、各班で「私が米須さんだったら〇〇できる」とアイデアを出す。	手法：ブレインストーミング 班ごとに意見をまとめてJamboardに付箋で貼りつける。
5分	5. 本時のまとめ ・アイデアの発表を各班で行う。 ・最も「持続可能で、ぜひ協力隊に実践してほしいアイデア」を各班で選ぶ。 ・選んだアイデアと、その理由を発表する。 ・グループのアイデアを見比べて、問いに対する答えをまとめる。 ・次回授業の予告	手法：ランキング 最も持続可能な方法を各班でランキングをつける。 ナイスアイデアだと考えたアイデアの付箋の色を黄色→青色に変える。 今日出たアイデアを協力隊の方に伝えることを約束し、授業を終了する。

ワークシート 「ヤエヤマから世界へ!~教室から考えるパートナーシップ~」2時間目

本時の目的

- ①SDGs17「パートナーシップで世界を平和に」の達成
- ②青年海外協力隊について知る。
- ③他国の課題を自分事として考える。

1. JICA 海外協力隊とのリモート交流

★交流する隊員の名前: _____ 派遣国: _____ 活動内容: _____

フォトランゲージ

Q 写真を見て気づいたことを書き込もう。

2. マダガスカルを紹介

Q 米須さんの紹介してくれる写真を見て、気づいたことをメモしよう。

3. 米須さんの要請にこたえよう

お題:あなたが米須さんなら、どのような方法で子供たちに学校にきてもらう?

【マダガスカルの現状】※スライドを見ながら整理しよう

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

ブレインストーミング

Q どのようなアイデアがありますか? ※実際のアイデアは Jamboard を使って出します。

ランキング

Q グループの中で、より「持続可能なアイデア」はどれですか? ※Jamboard の付箋の色:黄色→水色へ

みんなのアイデアがマダガスカルの「困った」を
解決するヒントになるかもしれませんね



授業の流れ(3時間)

【1時間目】

- ・マダガスカルについて知ろう
- ・米須さんに聞きたいことをまとめよう

【2時間目】

- ・米須さんとリモート交流
- ・マダガスカルの困りごと、解決のアイデアを考えよう。

【3時間目】

- ・地域の問題に視点を移そう。
- ・パートナーシップを定義しよう。

2時間目 マダガスカルとリモート交流

写真を見て気づいたことをJamboardの
2ページ目に書き込もう



本日交流してくれる JICA海外協力隊の紹介

1. お名前は？
2. 派遣国は？
3. 活動内容は？



実際の様子



写真① フォト・ ランゲージ

Q写真を見て気づいたことを付箋に書き、
貼り付けよう。

実際の授業

【作業：フォトラン】
写真をみて気づいたことを書き込もう





マダガスカルの学校



各グループ、ランキング1位（水色付箋）
のアイデアを見比べてまとめよう

Qマダガスカルで子供たちを学校に来てもらうにはどのようなことをしたら良い？

[illegible]

このクラスのアイディアを米須さんに伝えます。
みんなのアイデアがマダガスカル「困った」
を解決するヒントになるかもしれません

①地域（八重山）の課題を考える
②パートナーシップを定義する



ロールプレイで学ぶ 「公正な代表 (SDGs16)」

作成：廣松大和 所属：学校法人岩田学園岩田高等学校

ねらい

議会等の公的機関において、構成する人々の属性割合（性別、年齢、職業、出身地など）が意思決定に影響を及ぼしうることを体感するためのワークショップです。

自身とは異なる立場に立って考えるために、演劇的手法であるロールプレイを用います。テーマと場面を設定し、役柄を与えてディスカッションを行うことで、楽しみながら深い学びが得られます。同時に、政治的意思決定において参加者の属性が及ぼしうる影響について、学ぶことができます。

関連 SDGs 項目：Goal 16 - Target7

Goal 16	Promote peaceful and inclusive societies for sustainable development, provide access to justice for all and build effective, accountable and inclusive institutions at all levels 平和と公正をすべての人に 誰一人取り残さない 「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
Target 16.7	Ensure responsive, inclusive, participatory and representative decision-making at all levels あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。 (unicef 版：あらゆるレベルでものごとが決められるときには、実際に必要とされていることにこたえ、取り残される人がないように、また、人びとが参加しながら、さまざまな人の立場を代表する形でなされるようにする。)
グローバル指標 (Global Indicator) 16.7.1	Proportions of positions in national and local institutions, including (a) the legislatures; (b) the public service; and (c) the judiciary, compared to national distributions, by sex, age, persons with disabilities and population groups 国全体における分布と比較した、国・地方の公的機関 ((a) 議会、(b) 公共サービス及び (c) 司法を含む。) における性別、年齢別、障害者別、人口グループ別の役職の割合 数値抜粋： ・国会議員 女性 14.8% (2021 年) ・地方議会議員 女性 14.5% (2020 年) ・一般職国家公務員 女性 21.1% (2020 年) ・地方公務員 女性 39.6% (2018 年) ・裁判官 女性 23.0%(2020 年)

出典：外務省「SDGs Action Plan Platform」

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/goal16.html>

場面

総合的な探究の時間、学校設定科目、他
「SDGs 学習」「市民教育」「成人年齢引き下げ」「政治・経済」といったキーワードで、独立した授業設置が可能です。
SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」や目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」とも関連した内容となっています。様々な教科・活動と組み合わせることで、相乗的な学習効果も期待できます。
インターネット検索やインタビュー調査などの活動を取り入れることで、より奥行きのある学習活動にすることも可能です。その際は、授業を複数使用するとよいでしょう。

対象

高校生
今や SDGs に関して見聞きする機会は学校教育システムの内外に多くあります。そのため高校入学時にはある程度の SDGs に関する知識を備えているという前提で活動を設置しています。そうした SDGs に関する一般的な知識と、自ら考えたり自分の意見を述べたりする技術を用いて行うワークショップです。
●政治や教育の制度に関する、特別な知識は必要ありません。50 分があるという間に過ぎる中で、楽しみながら学べることを意図しています。
●グループワークにおける対人コミュニケーションの作法については、教員が一定の注意を払う必要があります。①相手の意見を否定しない②できるだけ平等に発言の機会を設ける、といった基本的なルールが守られるように配慮しましょう。
●日頃から生徒参加型の活動に慣れ親しんでいる生徒集団でも、そうでない場合でも実施可能です。

必要な時間

50 分間

手法

アイスブレイキング、フォトランゲージ、ロールプレイ

準備するもの

現地の写真、生徒用端末

教員

■配布用紙①～⑤
①フォトランゲージ用画像 (1 種類×6 枚)
②ワークシート「人物プロフィール」(6 種類 各 1 枚)
③ワークシート「スピーチ台本用紙」(1 種類×6 枚)
④振り返りワークシート 生徒人数分
⑤資料集
※用紙サイズは全て A4 程度が目安。デジタル配布も可。①はモニター表示も可。
(■タイマー、ストップウォッチ)
(■前方掲示用資料「SDGs 一覧画像」「フォトランゲージ写真」「ワークショップテーマ・場面設定」)

生徒

筆記用具

時間（分）	活動内容	目的	備考
0-10	アイスブレイキング「思いシェア (SDGs)」		
	作業内容： 各グループで、各自が興味のある SDGs 目標について話す。 目的： ① グループメンバーの顔合わせ ② 積極的に発言する雰囲気作り ③ SDGs について既存の知識を思い起こす ④ グループ内での意見の多様性を認識する	授業後半のロールプレイで活発な討議が行われることを目指し、発言内容の自由度が段階的に上がるよう活動を配置してある。 活発に意見が交わされるよう、机間巡視をしながら適宜助言する（後段の活動でも同様）。生徒のグループ討議経験に応じて、各グループにファシリテーターを設定したり、話す順番を指定してもよい。 タイマーやストップウォッチを使用して円滑な進行を促してもよい。	「公正な代表」について考える場合、 ① 意見の多様性 ② 多様な人物属性（性別、年齢、職業、国籍、文化など） ③ 人物属性と意見との関連性 3点についての理解が得られていることが望ましいと思われる。本ワークショップにおける三つの活動配置の伏線でもある。
	●教員による口頭指示 (1 分間程度)		
	口頭指示の例： 「本日のワークショップでは『公正な代表』をテーマに学びましょう。ワークショップとは、受動的に学ぶのではなく、知識やアイデアを出し合いながら、新しい発見や学びを自ら作り出してゆく活動ことを指します。まずは準備運動をしましょう。これから各グループで、一人一人が興味をもっている SDGs のゴールを一つ選び、理由と共にメンバーに紹介してください。例えば、『私が今一番興味をもっているのは、ゴール 14 番の、海の豊かさを守ろう、です。以前、英語の授業で、アクアカルチャーといって、効果的に魚を養殖することで乱獲と生態系の破壊を防ぐ、そんな取り組みがあると知りました。日本ではどうなのだろう、と気になっています』という感じ。ひとり 30 秒程度で、簡単に、思いつくままに喋りましょう。では、各グループで、始めてください。」		
		学級を全 6 グループに分け、ワークショップ全体を通して同一のグループで活動する。予めグループ分けをしておくスムーズ。通常教室であればグループディスカッションをしやすい机の配置に。	グループ作業の間、SDGs の一覧画像や、作業指示を前方掲示してもよい。

時間（分）	活動内容	目的	備考
	●各グループで意見交換 (1 人 30 秒程度)		
	●教員フィードバック (1 分間程度)	フィードバックの着眼点 例： ・多数の生徒が言及した SDGs 目標 ・活発に意見交換できていたグループの様子 ・グループ内のメンバーが発言しやすいようにファシリテートできていた様子 ・上手く発言できなかった生徒へのフォロー	グループワークにおいては、グループメンバー各自がそれぞれの考えを安心して述べられる環境づくりが大切であることを伝える。また、多様な考えが存在することを肯定的に捉えさせる。「もっとディスカッションを楽しみたい」という気持ちをもたせて次の活動へ。
11-20	フォトランゲージ		
	作業内容： 写真を見て感じたことや考えたことを、グループ内で自由に話す。 目的： ① 一つの写真素材でも観覧者によって目をつけるポイントや考えることが異なることに気づく ② 他者の意見から新たに学ぶ ③ 柔軟に思考する ④ 対立し得る意見であっても、楽しみながら共有する	本ワークショップでは、一例としてルワンダの女性議員比率の高さを知ることに関わる写真を使用。ルワンダの下院議会の状況を日本と対比的に捉え、異なる女性議員比率がもたらす帰結について考えを巡らせることを意図。	使用する写真は自由に選択可能。 使用する写真を選択する際の方針： ① ロールプレイのメインテーマとの関連 ② その写真自体から学べることがある ③ 対象生徒にとって新鮮さが感じられる素材（地理、文化、時代など） ④ 鮮明な写真でなくても構わない（あえてピントのずれた写真を使用し想像の幅を広げさせる手法）
	●教員による口頭指示 (1 分間程度)、フォトランゲージ用画像を各グループに配布		
	口頭指示の例： 「これから、1 枚の写真を見てもらいます。その写真を見て考えたことを、各グループで自由に話し合ってください。この写真が意味するのはこういうことだ、といったような、結論を求める必要はありません。意見を出し合う過程が大切です。考えたこと、疑問に思ったことなどを自由に話してください。多くの人が何度も発言できるのが理想です。お互いに発言しやすいよう、他のメンバーに対しても、何を考えているか尋ねましょう。正解はありません。楽しみながら話してください。3 分後に各グループの代表者から、話されたことを簡単に発表してもらいます。」		
	●各グループで意見交換 (3 分間程度)		
	●全体共有 (5 分間程度) - 各グループ代表者から		
	●教員によるフィードバックと解説 (1 分間程度)		

時間（分）	活動内容	目的	備考
	フィードバックと解説の例： 「どのグループも活発に意見交換できていました。鋭い視点から考察しており、正直私も驚きました。先程お伝えしたように意見を出し合う過程が大切なので、結局何の写真なのかという点についてはそれほど重要ではありません。とはいえ気にはなるとしますので答えを言いますと、アフリカにあるルワンダという国の、国会議員の集合写真です。ルワンダと言うと、凄惨な紛争があった国というイメージが日本では未だに根強いようですが、実は国会議員のうち女性比率が世界で最も高いという、世界をリードする一面を持っているんですね。」		
21-45	ロールプレイ		
	作業内容： 各グループで、割り当てられた役柄のスピーチ内容を考え、発表する。 目的： ①現実の自分自身とは異なる立場に視点をおいて考える ②人物プロフィールを読み解くためにグループ内で協力する ③他のグループのスピーチから学ぶ ④意見の多様性に触れる	ロールプレイという設計は、参加者に日常のロールから離れた状態で情報表出させるものである。日常の社会的役割を帯びたままでは情報表出することの本人にとってのリスクを回避できるため、活発な意見交換がみられやすい。	スピーチ作成の作業中、テーマと場面設定を前方掲示しておくとうい。
	ロールプレイのテーマ：学校教育（高校・大学・大学院）の完全無償化について 場面設定：市の予算編成における、学校教育無償化のための予算を組み入れる案に関するパブリックヒアリング（公聴会）		
	口頭指示の例： 「本日のワークショップの中心となる、ロールプレイを行います。ここまでの活動で培ったチームワークを存分に発揮して取り組んでください。各グループは、配られた人物プロフィールに沿って、役柄になりきったスピーチを考えます。スピーチをする場面は、市議会のパブリックヒアリングという設定です。私たちが住んでいる市では現在、次年度のための予算編成をしており、市内居住者の高校から大学院までの教育費用を無償化する案が挙がっています。これまで各家庭が支払っていた学費を、代わりに市が拠出するというものです。 皆さんは、市議会に呼ばれてそれぞれの立場からこの案に対する賛成や反対などの意見をスピーチします。人物プロフィールの内容を読み解き、それぞれの役柄になりきって、「この人物ならこう考えるだろう」と想像し、議会への出席者を説得するためのスピーチを作り上げてください。スピーチは1分間程度とします。グループ作業の後、代表者一人ずつ、実際にスピーチをしてもらいます。スピーチ台本用紙は自由に使用してください。 人物プロフィールによって、立場の想像しやすさや感情移入のしやすさに差があると思います。また、一部、あえて専門用語を入れている部分もあるので、作業が行き詰まりそうな時は遠慮せず私に声をかけてください。それでは、始めてください。」		
	●各グループで人物プロフィール理解及びスピーチ作成作業（10分間程度）		

時間（分）	活動内容	目的	備考
	●スピーチ（7分間程度）		
	●投票		
	案への賛成・反対を学級全体で挙手投票	一旦、各グループの役柄から離れさせて、個人の意見を問う。	
	●教員からの発問		
	①仮にこのヒアリングのメンバー6名で議論を継続し、そのメンバーだけで多数決を採ると、どのような結論が出ると予想しますか？	再度、役柄の視点に戻って考える。	公正な代表について考えるというテーマの最終段階。議決参加者の構成（代表のされ方）によって意思決定の帰結が異なることに気づかせ、その違いが市民にとって重大であることを実感させたい。視点が頻繁に変わるため、指示は丁寧に。
	②その結論は現在の日本の社会が目指す方向と同じですか？異なりませんか？実現していますか？理由は？	再び役柄を離れて、今度は実社会の視点で考える。	
46-50	まとめ（振り返りワークシートを配布）		
	ワークシート設問項目 ①（SDGs ターゲット 16.7 を見て）ターゲットと今回のワークショップはどのように関連しているか？ ②ワークショップを通して考えたこと、学んだこと、深く知りたいこと ③社会をより良くするために、自分には何ができる？	①をその場で回答させる。②③は持ち帰り課題とする。ワークシートには、設問の他に、SDGs ターゲット 16.7 の内容と、参考資料を記載。	残り時間の調整のために回答する設問数や順序を変更してもよい。 参考資料には、各人物プロフィールに記載されている情報がまとめてある。

人物プロフィール①

年齢	10 代
性別	男性
出身	日本
私立高校に通う高校生。高校卒業後は東京都内の私立大学へ進学して国際協力について学びたい。高校では「高等学校等就学支援金制度」に助けられた。	
参考： 政府は 2010 年に「公立高等学校授業料無償制・高等学校等就学支援金制度」を導入し、同法は 2014 年の法改定により「高等学校等就学支援金制度」と改められた。受給条件として年収約 910 万円未満の世帯という所得制限を課した上で、公立高校の場合は年額¥118,000、私立高校の場合は年額¥396,000 が支給される。 （文部科学省「高等学校等就学支援金制度」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1342674.htm ）	

人物プロフィール②

年齢	20 代
性別	女性
出身	ノルウェー
日本の大学に国費留学中。専攻は教育学。来日後、日本の高額な学費に驚愕した。周りの国内学生は、学問よりもアルバイトに多くの時間を費やしているように見える。	
参考： 2022 年の資料によると、教育機関に対する公的支出が国内総生産(GDP)に占める割合は、比較可能な OECD36 カ中、日本は 29 位。ノルウェーは 2 位。 （OECD “Education at a Glance 2022: OECD Indicators” https://www.oecdilibrary.org/sites/3197152ben/1/3/4/3/index.html?itemId=/content/publication/3197152ben&csp_=7702d7a2844b0c49180e6b095bf85459&itemGO=oecd&itemContentType=book ） 生活費収入において「小遣い」「奨学金」を超えて「アルバイト」が最大。アルバイト就労率は 70%台。 （全国大学生協連「第 57 回学生生活実態調査概要報告」 https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html ）	

人物プロフィール③

年齢	30 代
性別	男性
出身	日本

乳児を育てる育児休業中の新米パパ。「人生 3 大支出」の一つである子どもの教育費が気になっている。家庭で過ごす時間を減らしてでも仕事をするべきか悩命中。

参考：

高校入学から大学卒業までにかかる教育費用の平均は、子供 1 人当たり 942 万円。
 （日本政策金融公庫「令和 3 年度教育費負担の実態調査結果」
https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/kyouikuhi_chousa_k_r03.pdf）
 幼稚園 3 歳から高等学校第 3 学年までの 15 年間の学習費総額は 541 万円から 1830 万円。
 （文部科学省「平成 30 年度子供の学習費調査の結果について」
https://www.mext.go.jp/content/20191212-mxt_chousa01-000003123_01.pdf）

人物プロフィール④

年齢	40 代
性別	女性
出身	日本
私立学校法人に長年勤務し、会計・経理・財務を担当。少子化にも関わらず地域に私立学校が増えたことで、生徒減少に悩まされている。	
参考： 高齢化率は上昇を続け、14 歳以下人口、生産年齢人口割合は減少が続いている。 （厚生労働省「我が国の人口について」 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21481.html ） 年齢(3 区分)別人口の割合を見ると、あらゆる諸外国と比較して、0～14 歳は少なく、65 歳以上は多い。 （内閣府「令和 4 年版 少子化社会対策白書 全体版（PDF 版）」 https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2022/r04pdfhonpen/r04honpen.html ）	

人物プロフィール⑤

年齢	60代
性別	女性
出身	ルワンダ
IT・貿易会社を経営。日本でビジネスをしていると「女性なのにすごい」と言われる。ルワンダは国会議員の過半数を締めるほど女性の活躍が著しいためギャップを感じる。	
参考： Rwanda is the first country in the world with female majority in parliament, with 61.3% in the Chamber of Deputies and 36% in the Senate. (The Parliament of the Republic of Rwanda "Women representation" https://www.parliament.gov.rw/women-representation) Women entrepreneurs are a significant force in Rwanda's private sector. Women head 42 percent of enterprises. (International Finance Corporation "Voices of Women Entrepreneurs in Rwanda" https://www.scribd.com/fullscreen/19043807?access_key=key-pxs216a4cyp1mit9fe)	

人物プロフィール⑥

年齢	70代
性別	男性
出身	日本
長年勤めた企業を退職し、年金生活中。足腰が悪く、近々介護サービスを利用することになると考えている。最近病院に行ったところ、医療費の自己負担割合が増えていた。	
参考： 令和4年10月1日から、75歳以上の方等で一定以上の所得がある場合は、医療費の窓口負担割合が1割から2割に。 (厚生労働省「後期高齢者の窓口負担割合の変更等（令和3年法律改正について）」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryouhoken/newpage_21060.html) 2000年の介護保険制度開始以来、被保険者が支払う保険料及び介護保険の保険給付費は、共に年々増加している。 (厚生労働省「介護保険制度をめぐる最近の動向について」 https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000917423.pdf)	

振り返りワークシート

氏名_____

質問①

SDGs ターゲット 16.7（別紙「資料集」参照）と今回のワークショップは、どのように関連していると思いますか？

質問②

ワークショップを通して考えたこと、学んだこと、深く知りたいことを書きましょう。

質問③

社会をより良くするために、自分には何ができるでしょうか？

質問は以上です。お疲れ様でした。

資料集

●SDGs 目標 16、ターゲット 16.7、グローバル指標 16.7.1 について

目標 16	平和と公正をすべての人に 誰一人取り残さない 「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
ターゲット 16.7	あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。 (unicef 版：あらゆるレベルでものごとが決められるときには、実際に必要とされていることにこたえ、取り残される人がないように、また、人びとが参加しながら、さまざまな人の立場を代表する形でなされるようにする。)
グローバル指標 16.7.1	国全体における分布と比較した、国・地方の公的機関 ((a) 議会、(b) 公共サービス及び(c) 司法を含む。) における性別、年齢別、障害者別、人口グループ別の役職の割合 ・国会議員 女性 14.8% (2021 年) ・地方議会議員 女性 14.5% (2020 年) ・一般職国家公務員 女性 21.1% (2020 年) ・地方公務員 女性 39.6% (2018 年) ・裁判官 女性 23.0% (2020 年)

出典：外務省「SDGs Action Plan Platform」<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/goal16.html>

●より詳しく学びたい方は、以下の資料にアクセスしてみましょう。

□高校就学支援金制度について

文部科学省「高等学校等就学支援金制度」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1342674.htm

□教育予算の国家比較

OECD “Education at a Glance 2022: OECD Indicators”

https://www.oecd-ilibrary.org/sites/3197152b-en/1/3/4/3/index.html?itemId=/content/publication/3197152b-en&_csp_=7702d7a2844b0c49180e6b095bf85459&itemGO=oecd&itemContentType=book

□大学生の家計実態

全国大学生協連「第 57 回学生生活実態調査概要報告」<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>

□教育にかかる費用

日本政策金融公庫「令和 3 年度教育費負担の実態調査結果」

https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/kyouikuhi_chousa_k_r03.pdf

文部科学省「平成 30 年度子供の学習費調査の結果について」https://www.mext.go.jp/content/20191212-mxt_chousa01-000003123_01.pdf

□少子高齢化・人口減少社会についての統計データ

厚生労働省「我が国の人口について」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21481.html

□ルワンダ国会の女性議員比率

The Parliament of the Republic of Rwanda “Women representation” <https://www.parliament.gov.rw/women-representation>

□高齢者の社会保障費自己負担割合増加

厚生労働省「後期高齢者の窓口負担割合の変更等（令和 3 年法律改正について）」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryouhoken/newpage_21060.html

厚生労働省「介護保険制度をめぐる最近の動向について」<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000917423.pdf>

授業実践

94~98P

古見 優奈

所属：伊江村立西小学校

対象：6 学年（23 名）



100~103P

一ノ瀬 めぐみ

所属：伊江村立西小学校

対象：5 学年（24 名）



給食から見える世界 ～SDGsの視点を通して考える～

伊江村立西小学校 古見優奈

実践教科：総合的な学習の時間

時間数：9時間 対象：6学年（23名）



1 単元名「給食から見える世界～SDGsの視点を通して考える～」

2 単元目標

SDGsが自分たちの身近な課題と関わっていることを知り、課題の解決が持続可能な地球に繋がると捉え、自主的に課題を解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習の良さを理解できる。	実社会や実生活の中から問いを見出し、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究的な学習に主体的・協同的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度をもつことができる。

4 単元について

（1）教材観

日本では食品ロスが問題になっている。平成29年度では612万トンもの食品ロスがあった。世界の食料は足りているが、必要な分が行き渡らなかったり、無駄遣いをして廃棄してしまったりと課題が多くある。本単元では、こうした世界や日本の現状を児童等に伝えることができ、自分たちの食事に関する課題を見つけ、解決しようとする態度を養えると考え。また、これまでの自分たちの生活だけでなく、世界にも幅広く目を向け、より広い視点で物事を見ることが期待できる。

（2）児童観

本学級の児童は食に対して希薄な児童が多く、食べ物を残すことに抵抗感を持っていない傾向にあると考えられる。しかし、世界規模での食料事情を考えると食べ物を無駄にせず、全部頂くことは世界の人々を守ることにも繋がる。本単元ではSDGsと関連させ、世界に目を向けながら食育とは違った視点で食料の大切さを感じ、課題解決に向けて実践して欲しいと考える。

（3）指導観

SDGsについての基礎知識を学習し、フォトランゲージを用いて、給食の残量と世界は関わり合っていることや給食の残量が世界に及ぼす影響を取り上げて、給食の残量は自分たちの課題であると捉え、それを改善することは世界の状況を良くし、SDGsの達成に繋がっていることを理解させたい。

（4）指導計画

時数	めあて	学習活動
1	SDGsとは何だろう？	動画視聴やすごろくを通してSDGsとは何かを知る。
2	みんなが幸せな未来って何だろう？	SDGsについて学び、ワークショップを通して2030年がどのような世界になって欲しいのかを考える。
3	フォトランゲージを通して世界について知ろう。＜本時＞	フォトランゲージを通して自分たちの課題（給食の残量が多い）が世界と繋がっていることを知り、改善しようとする気持ちを持つ。
4	世界の食糧事情や環境について知ろう。	フォトランゲージを通して自分たちの課題（給食の残量が多い）が世界と繋がっていることを知り、改善しようとする気持ちを持つ。
5	フードロスが私たちに与える影響を知ろう。	フードロスが環境に与える問題や焼却にかかる予算等を学習する。
6	フードロスについて気になったことを調べよう。	タブレットや本などを用いてフードロスについて追加の情報を集める。
7 - 8	これまで学習したことをまとめよう。	スライドやCM作成など各グループで決めた方法でまとめる。
9	まとめたことを知らせよう。	学級でグループごとに知らせる。

5 単元について本時について (3/9)

(1) ねらい

フォトランゲージを通して、給食の残量が世界に与える影響を知り自分たちの課題として捉える。

過程	学習活動	指導上の留意点
導入	① SDGs について振り返る。 ■ SDGs とは何でしたか？ ② フォトランゲージという活動を行うことを知る。 ■ 写真からいろいろなことを想像しましょう。	本時の学習も SDGs に関連する学習だと捉えさせる。
展開	③ フォトランゲージの説明を聞く。 ④ フォトランゲージを行う。 ・ 1枚の写真について話し合う。  ・ 4枚の写真を見て話し合い共有する。  ⑤ 写真同士の関連性を知り、自分たちの課題を考える。 ■ 写真とみなさんはどのように関わっていますか？ ⑥ 給食の残量と関連する SDGs を考える。	◆ 正解、不正解に関係なく考えたことをとにかく自由に話していいことを伝える。 ◆ 1枚の写真を使って練習する。 ◆ 4枚の写真を関連させてストーリーを考えても良いことを伝える。 ◆ 全体共有後に5枚の写真の関連を説明する。 ◆ どのように関連しているのか理由まで考えよう促す。
まとめ	⑦ まとめと振り返りを行う。	

6 授業実践の様子

フォトランゲージの様子



それぞれのグループが写真をよく見て、考えている姿勢が見られた。
見て分かることよりも想像できることを多く出すことができたのはグループ活動にしたからだと考える。

発表の様子



4枚の写真の繋がりを見事に予想してくれた4グループ。児童が気づいてくれたおかげで、子どもたちの言葉で授業を展開でき、お互いに質問し合うなどして、深みがでた。

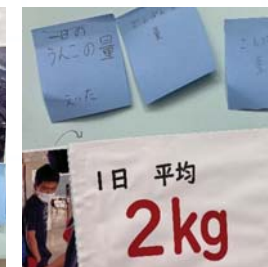
グループによる読み取り



○ 食べものを捨てている。
○ 残った給食を捨てている。
○ 作った人の気持ちを考えないでご飯を捨てている。
▲ 地球温暖化で氷が解けて海面上昇し、水害が起きている。



▲ 海面上昇している。
▲ 氷が解けて海面上昇し、逃げている。
▲ 地球温暖化の原因
▲ ゴミを燃やしているところ



▲ 残飯の量
▲ 1日のうんこの量

○ 写真を見て分かること
▲ 写真を見て想像したこと

板書



給食の残量に関連する SDGs は本学級では、8つでた。
それぞれ出した児童が理由までしっかりと述べる事ができていた。

7 単元について授業の振り返り

(1) 教材観

(1) 成果が出た点

① フォトランゲージを用いたことで、児童が積極的に自分たちの課題や世界の課題について考え、関連させることができていた。

② 4枚の写真を用いることで、自分たちの行動が世界に影響を与えているということを視覚的に感じることでできていた。

③ 写真を細かく見ながら、自分の考えたことを付箋に書くことが出来ていた。

④ 友達と話し合いながら活動することで、写真を見て多くのことを想像することができていた。

⑤ ほとんどの児童が写真を見て、自分たちの課題と関連させることができていた。

⑥ 4枚の写真を結び付けてストーリーを作れたグループがあったので、解説してもらうことで、子どもが自分たちで、課題と世界の現状を知ることができていた。

(2) 改善点

① 写真4枚のうち2枚はグループごとに変えると給食の残量が世界に与える影響がいくつもあることを実感させることができたと思う。

② 写真を読み取る際に事前にいくつかの視点を与えたほうが良かった。

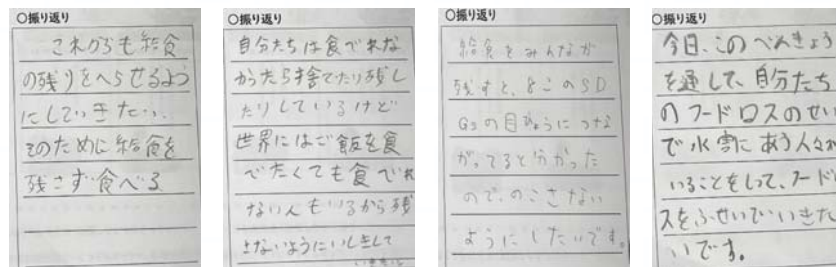
③ 1枚目の写真を使つての活動の時間を減らせば、グループでのフォトランゲージの時間を十分にとることができたので、改善する。

(3) 苦労した点

① 教材研究をする中で、多様な見方ができるような写真を選ぶことや資料を作成することに多くの時間を費やした。

② 世界の課題を自分事として捉えさせるにはどのようにアプローチすればいいのかを最も考えた。

8 児童の振り返り



自分たちの課題を認識し、改善しようとする気持ちを持った振り返りを書いていた。ワークショップとその後の学習を通して、給食の残量が世界に与えている影響を知り、危機感を覚え、給食をこれまでよりも一生懸命食べるようになり、残量が減った。

9 参考資料

ワークショップ集 古見担当箇所を参照ください

「世界の海 私たちの海」

長崎精道小学校 一ノ瀬めぐみ

実践教科：みじょ娘プラン（総合的な学習の時間）

対象：5 学年（24名）



1 単元名 「世界の海 私たちの海」

2 単元目標

- ・海のプラスチックの問題を知り、人間の消費生活と海の問題につながりがあることに気付く。
- ・海のプラスチック問題についての自分の生活をふりかえって、何ができるか考える。

3 単元について

（1）教材観

日本では、早くからリサイクルに力を入れ、環境教育にも積極的に取り組んできた。その結果、ペットボトルの分別回収などに取り組んでいる人は多い。一方で、現在はプラスチックごみによる海洋汚染が問題となっている。これは、プラスチックごみが投棄されていることや、回収されたプラスチックごみをリサイクルする際に費用がかかることなどが原因と考えられる。放置されたプラスチックや細かく分解されたマイクロプラスチックが海に流れ出し、それを摂取したり、からまったりした多くの海の生き物が命を落としている。それだけではなく、プラスチックごみを摂取した魚をさらに人間が食べることによる人体への影響も叫ばれるようになってきた。プラスチックごみへの対応は、海に住む生き物だけではなく、世界中にとって深刻な課題であるといえる。

（2）児童観

本学級の児童は、SDGsについて4月から取り組んでおり、17の目標について大まかに学習している。社会科では漁業について学び、長崎が漁業がさかんな地域であることなどについて学習している。7月には長崎大学環境科学部の教授から、現在の海の問題点やプラスチックには種類があることを学び、それを活かして夏休みに、海のごみ問題について調べ学習を行った。実際に海に行き、ごみを調べた児童やプラスチックの種類について家で実験をした児童などがあり、興味をもってこの問題に取り組んでいる。一方で、自分達はきちんと分別しているのでは問題ないと思ってしまうなど、世界規模の問題を自分事としてとらえることが難しいと考える。

（3）指導観

そこで、本時では児童が自分事として海のプラスチックの問題について考え、話し合いを通して解決していくことを目的として授業を行う。初めにJICAの「世界につながる教室」より「水と世界」の動画を視聴する。海の現状や世界の問題を知り、興味を持たせたい。次に、ロールプレイという手法を取り入れる。ロールプレイとは、それぞれの役割になりきって、立場になって現状を話し合い、考えていく学習法である。劇が好きな子ども達にとって、興味をもって取り組むことができるであろう。また、役になりきって台詞を話すことによって、プラスチックの問題点や立場がかわると問題点が変わっていくことについて、楽しみながら学習することができる。このシナリオは、子ども達が学習した内容や長崎ならではの内容にしており、より自分事としてと

らえることができると考える。最後に、これからできる新しいアイデアについて話し合いを行う。可能・不可能に関わらず、小学生ならではの自由な発想ができるようにしていきたい。また、多様な意見を受け入れ、そこから新しい考えを話し合ったりすることで話し合いがSDGs達成につながることを理解させたい。そして、この学びを世界SDGs発表会へ向けてつなげていきたい。

（4）指導計画（概略）

1 学期 SDGs17 について知る

ごみゼロプロジェクト① 長崎大学環境科学部朝倉教授のワークショップ

夏休み 海ゴミについての調べ学習

2 学期 ごみゼロプロジェクト② 朝倉教授に調べ学習の報告会

世界の海 私たちの海（本時）、SDGs 発表会（世界同時授業）に向けて

SDGs 発表会

3 学期 1 年間のまとめ

5 本時について

ワークショップ集 一ノ瀬担当箇所を参照ください

6 授業実践の様子（授業様子の写真）

● グループから1人代表を決めて、ロールプレイを実施



● 話し合いの様子



7 授業の振り返り

子どもたちは楽しみながら現状を知ることができていた。JICA 製作の動画が短い時間で世界の現状や活動を知ることにつながった。また、子どもたちは自分自身や友達がなりきること、自分事としてロールプレイや話し合いに参加することができていた。話し合いも活発で、時間があればもっと話したいようだった。それだけ、興味をもって活動していたということであろう。また、最後の話し合いではこちらが考えないような多様なアイデアが出されていた。マイボトル専用の自動販売機やお弁当箱に持ち帰るカステラなど、将来実用化されてもいいと思えるようなアイデアは子どもならではの発想だったと感じている。

ワークシートを配らずに話し合いをしたので、やや意見に偏りがみられたことが反省点である。ワークシートが手元があれば、もっと共感や違和感を引き出すことができたと感じている。

ロールプレイをするにあたって、子ども達に理解させながら、自分事ととらえられるような内容にする点が苦労したが、子ども達の興味をひきつけられて達成感を感じている。今後も地域や子ども達の実態に応じた授業をつくりあげていきたい。

8 参考資料

(1) ワークシート

世界の海 世界の水 長崎みらいの海会議 シナリオ

長崎に新幹線が通って、たくさんの人でにぎわっています。
 おや、海の近くでなにやら話し合いが行われています。少しのぞいてみましょう。

①N大学 環境科学部 ひるくら先生
 どうも、N大学でごみの研究をしているひるくらです。
 今、海の生き物たちが大変です。
 プラスチックの排出量は日本は世界2位です。
 ゴミの量が2050年には魚の量を超えるそうです。魚市場のよしながさん、魚の水揚げはどうですか？

②長崎魚市場 よしながさん
 魚は年々漁獲量が減っています。ごみの問題なのでしょうか。魚を食べない人も増えていて、なかなか魚も売れていないのが現状です。
 確かにたまにペットボトルが水揚げされている時もあるみたいですが、お弁当箱に魚を提供できるのか、心配です。

③かもめちゃん
 痛いよー。見て下さいこの魚。釣り糸がからまって動けません。最近、こんなゴミも多いし、エサの量も減っている困っています。
 この前は、友達が突然亡くなりました…。(泣)
 おなかがいっぱいで食欲がないと言っていたらそのまです。海の呪いなのではないでしょうか？

④釣り人 すずきさん
 かめさん、ごめんよ。釣り人が捨てた魚がこんなことに…。
 私はちゃんと分別していますが、中にはペットボトルが海に落ちてそのままにしている人もいます。そういう人に罰金とかしたらどうですか？ペットボトルはどこれも買えて便利なので、買わないことはできません。長崎の海は魚が美味しいのでいつも釣りを楽しんでいます。

⑤中国からの観光客 ワンさん
 ニーハオ！新幹線が通って、初めて長崎に旅行に来ました。長崎は海がきれいかなと思って期待して来たのですが、意外と海にごみが浮いているのが残念です。中国の海岸には日本語が書かれたものが流れ着きますが、そのせいで人気がないです。中国の分別は厳しいうから、そちらもお金がかかるので、全部そうするわけにはいきません。こちらも生活がかかっていますから。

⑥カステラ屋の ふくめいどうさん
 長崎に新幹線が通って大忙しです。特に今日は小分けにしたカステラが売れています。小分けにするプラスチックは使いますが、そちらが人気がないです。中国の海岸には日本語が書かれたものが流れ着きますが、そのせいで人気がないです。中国の分別は厳しいうから、そちらもお金がかかるので、全部そうするわけにはいきません。こちらも生活がかかっていますから。

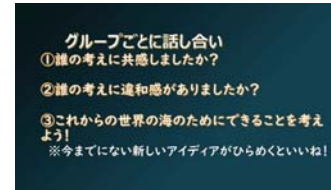
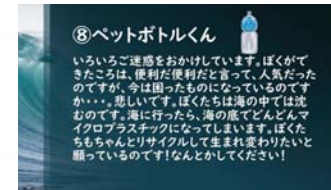
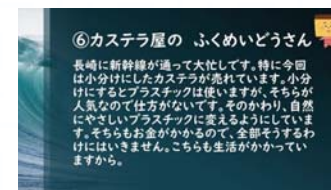
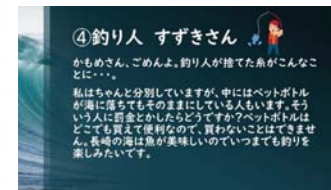
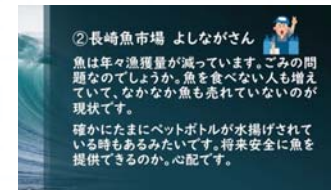
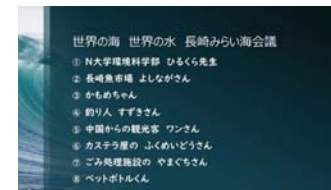
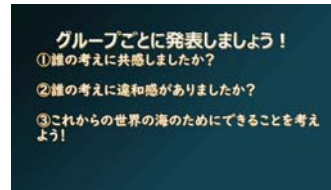
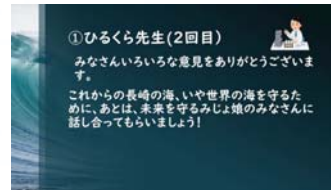
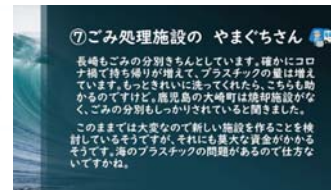
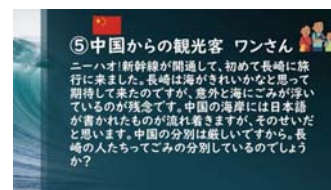
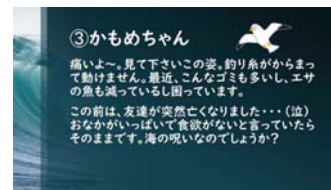
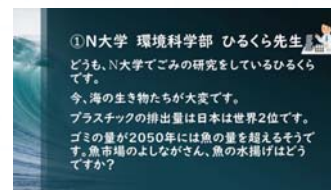
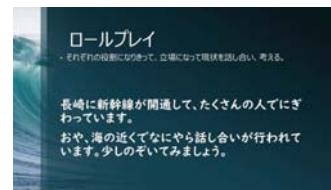
⑦ごみ処理施設の やまぐちさん
 長崎もごみの分別きちんとしています。確かにコロナ禍で持ち帰りが増えて、プラスチックの量は増えています。もっときれいに洗って、こちらも助かるので、ゴミの分別もお願いしています。
 この前は、友達が突然亡くなりました…。(泣)
 おなかがいっぱいで食欲がないと言っていたらそのまです。海の呪いなのではないでしょうか？

⑧ペットボトルくん
 いろいろご迷惑をおかけしています。ばくができたところは、便利に便利に言っているのでも、今は困ったものになっているのでも、…。悲しいです。ばくは海の中で沈むのです。海に行ったら、海の底でどんどんマイクプラスチックになってしまいます。ばくたちもちゃんとリサイクルして生まれ変わりたいと思っていますので、どうかしてください！

⑨ひるくら先生(2回目)
 みなさんいろいろな意見ありがとうございます。
 これからの長崎の海、いや世界の海を守るために、あとは、未来を守るみんなの海に話合ってもらいましょう！

グループごとに話し合い
 ①誰の考えに共感しましたか？
 ②誰の考えに違和感がありましたか？
 ③これからの世界の海のためにできることを考えよう！
 ※今までにない新しいアイデアがひらめくといいね！

(2) 授業で使ったスライド



ご協力いただいた皆様（敬称略）

- ・坂本 和樹（JICA インドネシア事務所）
- ・松元 昭二（大崎町役場）
- ・ブル ナマワティ（大崎町役場）
- ・原田 大資（大崎町役場）
- ・中村 大介（肝付町役場）
- ・倉 義経（肝付町役場）
- ・ユディカ エルギヤント（肝付町地域おこし協力隊）
- ・濱脇 大輔（内之浦漁協）
- ・河野 遼（熊本県立八代農業高等学校泉分校・2021 年度教師国内研修参加者）
- ・濱口 弥雲（延岡星雲高等学校・2021 年度教師国内研修参加者）
- ・桑山 昌洋（鹿児島県国際交流センター）
- ・鹿屋航空基地史料館
- ・そおりサイクルセンター
- ・内之浦銀河アリーナ
- ・鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター

スタッフ

- ・ちくご川コミュニティ財団 庄田 清人
- ・鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター 前原 無量
- ・JICA 沖縄 大城 工
- ・JOCA 沖縄 伊藤 丈和・垣花 拓実・金城 さつき
- ・JICA 九州 中野 由美
- ・NPO 九州 丸田 隆弘・羽生 志穂・原口 純一



2022 年度（令和 4 年度）

**JICA 九州・沖縄 教師国内研修
報告書 & ワークショップ集**

発行 2023 年 3 月

【発行者】

独立行政法人国際協力機構 九州センター（JICA 九州）

〒805-8505 北九州市八幡東区平野 2-2-1
TEL 093-671-8678 / FAX 093-671-0979

【研修実施団体】

特別非営利活動法人 九州海外協力協会（NPO 九州）

〒812-0025 福岡市博多区店屋町 4-8 蝶和ビル 503
TEL 092-710-5310 / FAX 092-710-5304